

中日会報

公益社団法人 中部日本書道会
 編集事務局 名古屋市中村区名駅二丁目45-19
 山ビル8階C室 番号
 電話 (583) 19000
 F A X (583) 19100
<http://www.cn-sho.or.jp>
 info@cn-sho.or.jp
 印刷 株式会社 荒川印刷

名誉会長あいさつ — 総会祝辞より —



名誉会長 神田 真秋

今年は何年になく早い梅雨入りでしたが、毎年この六月を迎えますと中日書道展の季節がやってきたと、気持ちの昂りを禁じ得ません。私は会場の二つである愛知芸術文化センターで仕事をしている関係もあって、一層その気持ちが強くなります。

今年も無事「中日書道展」が開催できましたことを、まずもって皆様とともに喜びを分かち合いたいと存じます。同時に、コロナ禍を乗り越え、総会をして祝賀会がこのように盛大に開催できたことに、心から感謝申し上げます。

この祝賀会には、愛知県知事をはじめたくさんのご来賓の皆様にご出席をいただき、錦上添花を添えていただきました。まさに有難うございます。また会員の皆様にも、こうしてたくさんの方々にご参加いただくことがで

き、とても嬉しく思っております。ご来賓並びに会員各位には、幾重にも御礼を申し上げます。

また、今回の中日展で海部俊樹賞をはじめ数々の賞を受賞されました皆様には、心からお祝いを申し上げますとともに、日頃のご精進に対し深く敬意を表します。先ほど私も表彰式に参加させていただきましたが、受賞された皆様方は、本当に嬉しそうに満面に笑みをたたえておられました。ある役員さんが私にこう言われました。「私も若い頃、ここで受章して表彰を受けたことが本当に嬉しかったです。今もその時の喜びをよく覚えている」と。

きつと本日受章された皆様も同じ気持ちだろうと思います。おそらくこれから長く記憶に刻まれ、皆様の作品制作の励みになることと思われまふ。今日受け取られました賞状やメ

目次

- 1 名誉会長あいさつ
- 2 新理事長あいさつ
- 3 第七十二回中日書道展入賞・入選者
- 4 榎本樹郎名誉会長代行 旭日小綬章ご受章
- 5 伊藤仙游理事長 岐阜県芸術文化顕彰ご受賞
- 6 近藤浩平常任顧問 愛知県芸術文化選奨ご受賞 祝賀懇談会
- 7 名誉会長代行 榎本樹郎先生 旭日小綬章ご受章
- 8 令和五・六年度役員、企画委員
- 9 令和五・六年度新役員、新企画委員
- 10 常任顧問 平松紫雲先生を偲んで
- 11 第七十二回 中日書道展 講評
- 12 第七十二回 中日書道展 審査総評
- 13 受賞者紹介 海部俊樹賞・大賞・準大賞
- 14 中日賞・桜花賞作品評
- 15 一科・二科入賞者
- 16 第七十二回 中日書道展 当番審査員
- 17 第七十二回 中日書道展を終えて
- 18 協賛会員一覧
- 19 令和五年度 総会・理事会
- 20 令和五年度 公開講座・書の匠展・書展ご案内
- 21 書道教育研修会のご案内

ダルは、間違いなく皆様方の大切な宝物になっていくものと確信しております。本当におめでとうございました。

加えて、嬉しいニュースもございました。本会の名誉会長代行・榎本樹郎先生には、この春の叙勲で旭日小綬章の栄に浴されました。また、本会の理事長伊藤仙游先生には岐阜県芸術文化顕彰を、常任顧問の近藤浩平先生には愛知県芸術文化選奨を、それぞれご受章されました。心からお祝い申し上げます次第であります。

さて、今年の中日展でもたくさんの方のご出品いただきましたが、その点数は三、五〇〇点に及び、若い方は15歳から、そして最長老は二〇二歳まで出品をいただいたと聞いております。これまで長い歴史を刻んできた中日書道展ですが、私はこの老・壮・青の幅広い年齢層の参加こそが、これからも中日書道会と中日書道展が未来に向かって発展していくための最も重要な礎であると確信しております。ここに皆様への期待は、将来の書道を担う若い人の育成に引き続き、ご尽力いただきますよう、何卒よろしくお願い申し上げます。

ところで、先だって、書道が登録無形文化財に指定されたことを記念して開催された特別揮毫会に、私も参加する機会を得ました。この中日書道会からは鬼頭翔雲先生、近藤

浩平先生が登壇され、大勢の前で揮毫される姿を拝見いたしました。久しぶりに席上揮毫を目の当たりにして、私は心から感激をいたしました。書道と言うのはなんと真剣なものなのだろうか。書家が日頃鍛えに鍛えた書の技と精神で真剣勝負する姿というのは、書の持つ奥深さや揮毫する人の全人格までもが伝わる凄みがありました。そして私はこう思いました。こういう席上揮毫をもっと多くの方に見ていただき、書道の素晴らしさを一般の人々にもっともっと知ってもらおう機会にしたい。来年は中日書道会九十周年を迎えますので、こうした公開揮毫で書を広くアピールして周年事業を盛り上げたいと、そんな思いをめぐらせた次第であります。

最後になりますが、書は日本の歴史と伝統を支えるとても大切な文化活動であります。その活動の中心を担っていただくのが、本日ここにお集まりをいただきました諸先生方でありまふ。この地域の書文化の向上のために、これからも一層、精進いただき、益々活躍をいただきますことを心からお祈りして、私のご挨拶に代えさせていただきます。本日は、まさに有難うございました。

— 六月二十五日総会祝賀懇談会の

挨拶に加筆しました

新理事長あいさつ



理事長 伊藤仙游

この度の改選により、公益社団法人中部日本書道会の三期目となる理事長を拝命致すことになりました。三期目ともなりますとその責務の重大さが我が身に迫り、身も心も厳しく引き締まる程の思いでございます。

思い起こしますと前二期の四年間は、新型コロナウイルスへの対処に明け暮れたと言っても過言ではない程でした。すべての事業に制限がかけられた初年度から長い時間をかけて少しずつ回復、第七十回記念中日書道展の開催・祝賀懇談会の開催に始まり本年度の第七十二回中日書道展・祝賀懇談会の開催に至るまで、以前の活動を何とか取り戻すところまでに回復いたしてまいりました。当初は行方も見えぬ不安な日々でしたが、経験豊かな副理事長や事務局長をはじめとする理事・企画委員の皆様、そして会員の皆様方のご協力を賜り、状況に応じて出来る事を精一杯に執り行うことで、次第にあるべき姿に戻りつつあります。

えて結集し、総合書道団体として現在に至っております。昨今の社会情勢に様々な問題もありますが、その歴史と伝統を踏まえ、さらにIT・AIなどにも対応できるよう努めることで、更なる発展を目指してまいります。

令和六年の九十周年には記念事業を予定しております。会員の皆様方に楽しんでいただける催しで、しかも中日書道会を全国的にアピールできればと考えております。予算的なこともありますが、今後副理事長・事務局長・理事・企画委員の皆様と一致協力して計画を練り上げ、楽しく活気のあるイベントを開催したいと存じます。今後も会員の皆様楽しんで参加できる中部日本書道会を目指してまいりますので、何卒ご支援ご協力を賜りますようお願い申し上げます。



団体署名実施協力中

つなごう日本の書道文化

ユネスコの無形文化遺産に



顕彰

令和五年 春の叙勲

旭日小綬章ご受章

名誉会長代行 樽本樹邨 先生



令和四年度

岐阜県芸術文化顕彰ご受賞

理事長 伊藤仙游 先生



令和四年度

愛知県芸術文化選奨ご受賞

常任顧問 近藤浩乎 先生



第十回 日展 審査員

伊藤仙游 先生

吉澤劉石 先生

川合玄鳳 先生

ご長寿お祝い顕彰

本年度中日書道展出品者で最高齢・米寿をお迎えの方

最高齢 一〇二歳

正会員 小澤 松煙 氏

米寿 八十八歳

参与 稗田 美苑 氏

評議員 石原 清至 氏

評議員 鵜飼 能勢 氏

評議員 梶田 月湖 氏

評議員 齋藤 芝香 氏

評議員 志水 玉華 氏

評議員 林 玲玉 氏

評議員 藤井 和彦 氏

評議員 宮田 清風 氏

正会員 谷川 花影 氏

正会員 森 暁雲 氏

正会員 柳瀬 緑風 氏

第72回中日書道展入賞・入選者

樽本樹邨名誉会長代行 旭日小綬章ご受章

伊藤仙游理事長 岐阜県芸術文化顕彰ご受賞

近藤浩乎常任顧問 愛知県芸術文化選奨ご受賞

祝賀懇談会

祝賀懇談会を開催して

厚生部長 加藤 矢舟

令和五年六月二十五日(日)名古屋観光ホテル曙の間・那古の間に於いて令和五年度総会、第七十二回中日書道展祝賀懇談会が盛大に開催されました。本年は役員改選があり祝宴に先立ち、新理事長に伊藤仙游先生、新副理事長に岡野楠亭先生、加藤 裕先生、松下英風先生、横井宏軒先生が理事会にて選任されたご報告がありました。

岡野楠亭副理事長より「樽本樹邨先生、伊藤仙游先生、近藤浩乎先生のご栄誉は中日書道会創立九十周年に向けて大きな追い風になります」と開会の言葉で祝賀懇談会が始まりました。

最初に神田真秋名誉会長から「中日書道展が盛大に賑やかに開催されたのは皆様のご理解、ご協力のお陰です。ご入賞・ご入選された皆様誠におめでとございました。今後も老若男女が力を合わせて書道会を牽引して頂きたいです。そして、席上揮毫を通して書道の深遠な底深い価値を多くの人に知ってもらい、書文化の向上のためにご活躍されることをご祈念いたします」とお言葉を賜りました。引き続き、令和五年春の叙勲で樽本樹邨名誉会長代行が旭日小綬章を受章されましたので、神田真秋名誉会長より花束が贈られました。

そして、ご来賓の皆様を代表して愛知県知事大村秀章様より「樽本樹邨先生の旭日小綬章、伊藤仙游先生の岐阜県芸術文化顕彰、近藤浩乎先生の愛知県芸術文化選奨受賞を心からお祝い申し上げます。そして、伝統文化の書道をさらに盛り上げて頂き、中日書道会の益々のご隆盛をご祈念いたします」とご祝辞を戴きました。中日新聞社事業局長の尾久充弘様より「コロナを経験した中、やはり文化芸術は人生にとって関わり深く欠かせないものです。中日書道会のご発展をご祈念いたします」とご祝辞を戴きました。続いて東海テレビ放送株式会社取締役事業担当の林 泰敬様より「書道展では力強い書体、美しい仮名文字、墨の濃淡など味わい深い作品に感銘を受けました。幅広い世代に愛される書道が続け、ご活躍されることを願っています」とご祝辞を戴きました。

次に来賓のご出席者十二名のご紹介後、令和四年度岐阜県芸術文化顕彰受賞の伊藤仙游理事長、愛知県芸術文化選奨受賞の近藤浩乎常任顧問に花束の贈呈がありました。そして、CBCテレビ取締役副会長の林 尚樹様の乾杯のご発声で祝宴が始まりました。

二時間余りの宴も、加藤 裕副理事長の閉会の辞により、五六〇名のご出席を頂きました祝賀懇談会を盛況なうちに無事終えることが出来ました。皆様には深く感謝申し上げます。



CBC テレビ 取締役副会長 林 尚樹様



東海テレビ放送 取締役事業担当 林 泰敬様



中日新聞社 事業局長 尾久充弘様



神田真秋名誉会長挨拶



祝賀懇談会風景



祝賀懇談会乾杯風景

叙勲

名誉会長代行 樽本樹邨先生

旭日小綬章ご受章

慶祝、樽本樹邨先生旭日小綬章ご受章

理事長 伊藤 仙游

本会名誉会長代行樽本樹邨先生におかれましては、この度の春の叙勲に於きまして、旭日小綬章

ご受章の榮譽に浴されました。誠にめでたく衷心よりお祝い申し上げます。これは先生ご家族様はもとより御社中の皆様にとりまして、この上ないお慶びで御座いますと共に、本会公益社団法人中部日本書道会にとりまして至上の喜びであり、かつてない最上の慶事でございます。

この慶事を皆様と共に祝いしたく存じ、本会も主催の一角にお加え頂き、轟友会・牛刀書道会・公益社団法人中部日本書道会の三者の主催により祝賀会を開催（中部日本書道会では評議員以上の方にご案内）、五百名を超える皆様にご参加をいただくことができました。

大勢の皆様にご参加いただけましたのは、樽本先生のご人徳の賜物でございます事、これは自明の理でございますが、お集まり下った皆様の温かいお心に、心から感謝申し上げて居ります。皆様のお陰で、「明るく楽しく温かい祝賀の宴」を開催

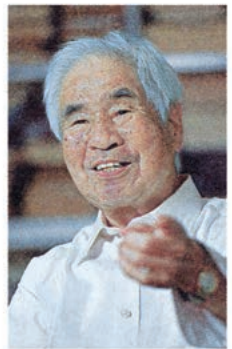
することができました。主催者の一人として心から嬉しく存じます。

野球少年から書の道へ進まれた先生は、中林子鶴先生、青山杉雨先生のご指導を仰がれて様々なご受賞を重ねられ、平成二十二年には日本芸術院賞をご受賞、日展理事にもご就任されました。また一方で、中部日本書道会では長きに渡り理事長をお勤めになり、江蘇省との国際交流展、時代を拓く大作展、愛知万博「世界のSHO・日本の書」出展参加など、様々なイベントを成功に導かれました。

このような業績を誇る先生は、現在も中部書壇・日本の書壇の精神的支柱であり、先生からいただく温かいご指導が私たちをお励まし下さっております。

どうか先生に於かれましてはお身体にご留意下さり、今後とも末永く私たちをご指導下さいますよう心からお願ひ申し上げます。

旭日小綬章
書家
樽本樹邨さん



一本の線究めたい

「書の道を開き、高めてくれた恩師に感謝したい。日展に初入選。以来、数多く晴れやかな表情で受章の喜びを語る。六十年以上第一線の創作に励み、書道界をけん引してきた。喫茶チェーン「コメタ珈琲店」の看板の文字を揮毫したことでも知られる。

筆を取ったのは高校生になってから。中京商業高（現中京大中京高）に野球推薦で入ったが、書道の教諭だった書家の故中林子鶴さんの人柄にひかれ、「真剣に取り組んでみよ」と決めた。二十五歳で

中日新聞 令和五年四月二十九日号より転載

お慶びの樽本名誉会長代行ご夫妻



旭日小綬章 賞状



旭日小綬章 勲章

名誉会長代行 樽本樹邨先生 旭日小綬章ご受章 受章祝賀会

受章祝賀会を開催して

副理事長 横井宏軒

この度、令和五年春の叙勲で名誉会長代行樽本樹邨先生が「旭日小綬章」をご受章されました。このことは、樽本樹邨先生にとりましても私たちが会員にとりましても大きな慶びであります。

この栄誉を祝するとともに、今後のご活躍を祈念し、令和五年七月一日(土) 正午、名古屋マリオットアソシアホテルにおいて「樽本樹邨先生旭日小綬章 受章祝賀会」を(公社) 中日書道会・轟友会・牛刀書道会の三団体の主催で総勢五〇三名の出席者によって厳かにかつ楽しい祝賀会が盛大に行われました。

祝賀会は、清興①中国琵琶の演奏後、牛刀書道会鬼頭翔雲理事長の開会のことばに始まり、主催者代表として轟友会 角元正燦理事長の挨拶があり、来賓祝辞を(公財)全国書美術振興会会長 田中壮一郎様、愛知芸術文化センター総長 神田真秋様、謙慎書道会理事長 高木聖雨先生、書道文

化研究家 西嶋慎一様、近代書道研究所代表取締役 青山慶示様の皆様にいただきました。

ご臨席を賜りましたご来賓十五名のご紹介後、樽本樹邨先生・令夫人に三団体の主催者からそれぞれ花束、記念品が贈呈され、樽本樹邨先生から謝辞をいただきました。

中日新聞社 常務取締役 名古屋本社代表 真能秀久様の乾杯のご発声により、祝宴が始まり、祝宴の間には、中国伝統芸能の「中国の変面と歌舞」と「中国琵琶演奏」で会場が盛り上がりました。



牛刀書道会
鬼頭翔雲理事長開会の言葉



樽本樹邨先生



全国書美術振興会会長
田中壮一郎様



轟友会理事長
角元正燦様



謙慎書道会理事長
高木聖雨様



愛知芸術文化センター総長
神田真秋様



近代書道研究所代表取締役
青山慶示様



書道文化研究家
西嶋慎一様



中部日本書道会
伊藤仙游理事長閉会の言葉



中日新聞社常務取締役
名古屋本社代表 真能秀久様



祝賀乾杯



祝賀会風景

最後に中日書道会 伊藤仙游理事長より皆様への感謝とお礼の言葉を述べて和やかな雰囲気の中閉会いたしました。
樽本先生ならびにご家族のますますのご健勝とご多幸を心よりお祈り申し上げまして、叙勲受章祝賀会のご報告とさせていただきます。

令和五・六年度役員

※新は、新役員

名誉会長代行

樽本 樹邨

名誉副会長

安藤 滴水
鬼頭 翔雲

理事長

伊藤 仙游

副理事長

岡野 楠亭
加藤 裕
松下 英風
新横井 宏軒

理事

天野 白雲
磯谷 凌聰
岩田 潤流
新伊藤 小游
大池 青岑
大木 青嵐
尾崎 紫光
新加藤 矢舟
新上小倉 積山
新神谷 光園
川合 玄鳳
川崎 尚麗
後藤 啓太
佐野 翠峰
鈴木 立齋

監事

新田中 石雲

遠藤 栄久
村上 史麗

新顧問のご紹介

顧問
工藤 俊朴
山際 雲峰

令和五・六年度企画委員

※新は、新担当部長

【事務局】

事務局長

企画委員長

総務部長

庶務部長

第一企画部長兼IT部長

第二企画部長兼IT部長

第一経理部長

第二経理部長

会員部長

第一事業部長

第二事業部長

研究部長

第一教育部長

第二教育部長

褒賞部長

渉外宣伝部長

記録統計部長

編集部長

厚生部長

【支部】

一宮支部長

半田支部長

西三河支部長

東三河支部長

濃飛支部長

北勢支部長

中南勢支部長

岐阜支部長

横井 宏軒

大池 青岑

天野 白雲

村瀬 俊彦

佐野 翠峰

上小倉 積山

磯谷 凌聰

神谷 光園

内田 翠徑

後藤 啓太

馬場 紀行

廣澤 凌舟

武内 峰敏

川崎 尚麗

水野 峯翠

田中 修文

山中 桂山

新伊藤 昌園

林 柏堂

新村上 史麗

新杉江 花城

新加藤 矢舟

新山川 孝子

新堀 梅肇

新荒木 友梅

谷 鴻風

今田 紅溪



新副理事長



新理事長



新理事・監事紹介



新理事長・副理事長発表



安藤滴水名誉副会長による
新理事・監事選考説明

新役員の方々

※伊藤仙游新理事長挨拶は、P2に掲載



副理事長 横井 宏軒

この度の役員改選により副理事長という重要な任務を引き受けることとなり、いささか戸惑っています。

中日書道会は、創立以降多くの先生たちのご尽力により書道の普及、書道芸術の高揚および書道教育に関する事業を行い、また地域の書道文化に貢献し、書の総合団体として発展しております。

今までの基本理念・目的を継続するとともに、さらに現事業の充実・向上および時代の変化に対応したあらたな事業、運営を理事長の伊藤仙游先生、副理事長の岡野楠亭先生、加藤裕先生、松下英風先生とともに微力ながら職務を行いたいと思います。

来年は、中日書道会創立九十周年の年であり新たな節目の年を迎えます。記念事業の成功および運営に尽力するとともに会の発展・向上に努めたいと存じます。今後とも何卒ご指導賜りますようお願い致します。



理 事 伊藤 小游

この度は、公益社団法人中部日本書道会の理事にご推挙いただき、身に余る光栄と心より感謝申し上げます。



理 事 尾崎 紫光

この度は、公益社団法人中部日本書道会の理事にご推挙いただき身に余る光栄と恐縮しております。また、伝統ある本会の理



理 事 上小倉積山

新理事として就任させていただき、身の引き締まる思いであります。社団法人中部日本書道

伝統と歴史ある本会理事という責務の重大さに、身の引き締まる思いを痛感致しております。

もとより浅学非才な私ではございますが、責務の重さに負けぬよう誠に微力ながら精一杯努めさせて頂きます。

今後とも何卒、先輩理事の皆様を始め諸先生方のご指導ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

事としての責務の重大さも痛感しております。

何分にも本会の運営に携わる事は、初めてでありますので、諸先輩方のご指導の下、伝統ある書道の下、広い普及と本会発展を願い微力ながら精一杯努めさせて頂いたたく所存であります。今後とも諸先生方、会員様のご指導、ご鞭撻賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。



理 事 神谷 光園

会は、全国的にも類のない、様々な会派が一堂に会して書道の普及に努めている団体であります。その中で理事という重責を務めさせて頂いたこととなり、今後、自分には何をやる事が出来るのかをしっかりと考えて

行こうと思っております。会員の皆様方全てが書の魅力を感じながら、それを少しでも多くの方々に、届けたいと考えています。今後ともよろしくお願い致します。

この度の総会にて、理事を拝命いたしました。重責に身の引き締まる思いです。

古典の臨書と作品づくりに取り組み日々、思うようにいかないもどかしさを感じますが、難しいから面白いのかもしれない。

古典の臨書と作品づくりに取り組み日々、思うようにいかないもどかしさを感じますが、難しいから面白いのかもしれない。



理 事 広井 秀琳

この度は、計らずも公益社団法人中部日本書道会の理事にご推挙いただきまして、身に余る光栄と、心より感謝申し上げます。お役目の大きさに、身の引き締まる思いと、浅学非

才な私に重責が務まるのか
と、不安ばかりでござい
ます。その責務を務めさせ
ていただきますには、諸先
生方のご指導と、会員皆様
方のご支援・ご協力が必要
となってまいります。



理事 水野 峯翠

この度の役員改選におき
まして、歴史と伝統ある公
益社団法人中部日本書道会
の理事にご推挙いただきま
したことは、身に余る光栄
と感謝申し上げます。



監事 田中 石雲

監事内定の知らせを受
けたとき、驚愕して足が震
えました。なぜなら、浅学

歴史と伝統ある本会の更
なる発展の為に、お力添え
を頂戴いたしまして、精一
杯努力してまいりますの
で、何卒よろしくお願い申
上げます。

四年間監事の職を務めさ
せていただき、本年度から
更なる重責の新理事とし
ての職を拝命いたしましたこ
と、微力ではございますが、
中日書道会のさらなる発展
と飛躍の為に、精一杯努め
させていただきます所存でござ
います。

諸先生方には、今後とも
変わりのないご指導とご鞭
撻を賜りますよう、よろし
くお願い申し上げます。

非才な私に、伝統と榮譽あ
る中部日本書道会の監事と
いう重責が務まるのかとい
う不安からでした。

新型コロナウイルスの蔓延で、さ
まざまな行事が中止や自粛
に追い込まれ、会の運営方
法も大きく変貌しました。
「今こそ、不易を守るべき
か、変革すべきか」、冷静
に見極める好機かと思えま

す。また、少子高齢化社会
にあり、子供達が書道によ
り興味を持てる夢のある会
を目指して、貢献できれば
と考えています。

新企画委員の方々



厚生部長 伊藤 昌園

この度、厚生部長を拝命
いたしました。これまでは、
佐野翠峰先生の下、第一企
画部に次長として所属して
おりましたが、初めての部
長職に身の引き締まる思い
でございます。これを機に、

先輩の先生方のご指導を
仰ぎながら、全力で職務に
邁進していく所存です。ご
指導、ご鞭撻を宜しくお願
い申し上げます。



半田支部長 杉江 花城

この度計らずも、中部日
本書道会一宮支部長を拝命
することとなりました。
平成十四年に初めて一宮
支部厚生部長をお受けしま
してから二十一年後に、伝
統と榮譽ある一宮支部長の
重責を担うこととなります

とは、晴天の霹靂で夢にも
思いませんでした。
コロナ蔓延から三年経過
し、社会情勢も激動してい
ます中、少子高齢化の荒波
も真正面より受け止めなく
てはなりません。



西三河支部長 加藤 矢舟

この度は、西三河支部集
会に於いて支部長候補とし
ての推薦を受け、新理事長

まだまだ経験不足の未熟
な私ですが、本部の先生方
始め支部員の皆様のご支
援を頂戴しながら本部及び
支部運営に全力を注いでま
いりたいと存じます。

うぞよろしく申し上げます。
半田支部のある知多半島
は肉・魚料理ともに新鮮な
食材が揃っており、絶品で
お勧めできる店が数多くあ
ります。料理に関心をおも
ちいただけたら、是非、半
田支部行事にお運びいただ
けることをお待ちしております
ます。

役員および本会の皆様を
始め、半田支部会員の皆様、
今後ともご支援ご指導の程
お願い申し上げます。

先生より第十三代・西三河
支部長としての任命を頂き
ましたことは、身の引き締
まる思いでございます。微
力ではありますが、全力で
責務を果たして参りたいと
思います。現在の会員数
は、約二八〇名と減少傾向
にあります。これを受け事
業を見直し、改善と効率化
をはかり推進してまいりた

一宮支部長 村上 史麗



いと存じます。また、本部との連携を大切に会員の皆様の建設的なご意見に耳を傾け、結束力を高め、支部事業が活性化されるとともに、会員が一人でも増加し、支部発展に繋がるように努

めたいと思っております。本部の先生方のご指導を仰ぎ、支部役員、事務局員、会員の皆様のご支援を賜りますようお願い申し上げます。い申し上げます。



東三河支部長

山川 孝子

本年度より中部日本書道会東三河支部長をお引き受けし、その重責に身の引き締まる思いでおります。支部発展のために努めてまい

る所存でございます。コロナ感染対策が緩和され、支部行事を復活、充実

させることができようになりなりました。コロナ禍におきましては、前支部長の下、様々な工夫と判断で東三河支部の活動を計画推進してまいりました。そこから学

んだことを生かしつつ、これまで東三河支部の発展にご尽力くださいました諸先生方の足跡を鑑み、会員の皆様とともに東三河支部の発展に努めてまいりたいと思

います。ご指導とご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。上げます。



濃飛支部長

堀 梅肇

この度濃飛支部の支部長

を拝命致し、大変身の引き締まる思いで日々過ごしております。私は書道の部門に於いて篆刻を中心に活動しておりますが、時代を遡ると歴代

秋戦国古塵・簡帛・小篆・印篆等々時代、地域によってその形式や表現方法があるように篆刻の魅力があり、書道に携わる方々の中で繋ぎ役として支部の維持発展に努めて行く所存です。

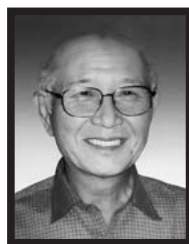


北勢支部長

荒木 友梅

令和五年度より、北勢支部長を仰せつかりました。今までは他の仕事や他団体の役職の関係でこの職を断り続けてい

ました。念したところ。書道界の仕事は誰かがやらなくては書道界が回って行かず、書



常任顧問 平松紫雲先生を偲んで

理事 大木 青 嵐

先生は、昨年十一月から入院治療を続けておられました。幾たびか様々な身体の不調に遭遇しても、気丈さと懸命なハビリにより、奇跡的な回復をされました。今回もまた元気に復活されるものと信じていました。

四月十四日、病状が急変したとの連絡が入り、その僅か二時間後にはご逝去されたのです。あまりにも突然のこと

で、悔やまれてなりません。先生は、若いときから書一筋で生活され

ており、書に対する飽くなき修業と努力を積み重ねてみえました。先生

のその姿を通して、もっと勉強しなければと痛感する日々でした。「書は人なり、書は勿論のこと人間としての修業もとても大切だ」ということも

常々おっしゃっていました。作品を見ていただくとその時の心をいつも見透かされ、先生には言葉は無用だと感じた

ものでした。また「線を鍛えなさい」とも。優れた技巧があつたとしても、

優れた技巧があつたとしても、敢えて技巧によらず引いた線の方が、格が上だからということ

です。最後の最後まで筆をとって書いていたと言われ、全力投球されながら旅立たれました。生前心を通わせ、支えて下さいました皆様に心より感謝いたします。今後は、師の書への情熱と教えを守り、門下生一同励んでまいりたいと思っております。ご冥福を心よりお祈りいたします。



第72回

中日書道展

漢字、かな、近代詩文、少字数、篆刻・刻字

入場料 300円
(小・中・高生 無料)

第73回 中日書きぞめ展 上位作品展示

愛知県美術館 ギャラリー(愛知芸術文化 センター8階)

6月14日(水)~6月18日(日)

審査顧問、特別出品、一科審査会員、
二科審査会員、依頼作品、無鑑査受賞作品
海部俊樹賞、大賞、準大賞、
中日賞・桜花賞
第73回 中日書きぞめ展 上位作品

午前10時から午後6時(金曜日含む)
最終日の18日(日)は午後4時まで

名古屋市民 ギャラリー栄(7・8階)

6月13日(火)~6月18日(日)

無鑑査作品(漢字、かな、近代詩文、少字数、篆刻・刻字)
(但し、中日賞・桜花賞受賞作品は愛知県美術館ギャラリーに展示)
二科作品(近代詩文)

6月20日(火)~6月25日(日)

二科作品(漢字、かな、少字数、篆刻・刻字)

午前10時から午後6時
最終日の25日(日)は午後4時30分まで

電気文化会館 東・西ギャラリー(5階)

6月27日(火)~7月2日(日)

一科作品(漢字 姓 あ〜す、篆刻・刻字)

7月4日(火)~7月9日(日)

一科作品(漢字 姓 せ〜)

7月11日(火)~7月16日(日)

一科作品(かな、近代詩文、少字数)

午前10時から午後5時
最終日の7月16日(日)は午後3時まで

主催/愛知県書道会・中日新聞社

後援/愛知県・岐阜県・三重県・名古屋市、愛知県・岐阜県・三重県・名古屋市 各教育委員会

出品数一覧表	一部 (漢字)	二部 (かな)	三部 (近代詩文)	四部 (少字数)	五部 (篆刻・刻字)	出品点数
	審査顧問	-2 10	0 1	0 2	0 0	0 0
特別出品	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0
一科審	-17 296	-1 68	-2 70	-2 35	-2 17	-24 486
二科審	4 363	-7 65	3 101	-1 31	-2 19	-3 579
依頼	-1 259	0 53	3 75	0 17	1 19	3 423
(~21歳)	1 1	0 0	0 0	0 0	0 0	1 1
無鑑査	-16 240	1 37	4 81	0 18	3 26	-8 402
(~21歳)	0 1	0 0	-1 0	0 0	0 0	-1 1
一科	-13 355	-2 54	-4 118	-4 25	0 31	-23 583
(18~21歳)	1 37	-1 0	4 16	0 0	0 0	4 53
(15~17歳)	1 1	0 0	0 0	0 0	0 0	1 1
二科	-1 264	9 72	-1 123	-4 14	-13 39	-10 512
(15~21歳)	6 304	3 7	-1 138	3 7	-8 3	3 459
出品合計	-37 2,131	2 357	5 724	-8 147	-21 154	-59 3,513

漢字、詩文など 多様な書風楽しんで



多様な書作品が並ぶ会場一名古屋・栄の県美術館で

名古屋で中日書道展開幕

第七十二回中日書道展(中部日本書道会、中日新聞社主催)が十四日、名古屋・栄の県美術館で開幕した。多様な書作品が並び、来場者を魅了している。十八日まで。

同書道会の会員らが漢字、仮名、近代詩文、少字数、篆刻・刻字の五部門に約千六百点を出品。会場は、友人の作品を見に来た人や書道教室の仲間と勉強に訪れた人でにぎわった。ほかに、いずれも名古屋市中区の市民ギャラリー栄(二十五日まで。十九日は休み)、電気文化会館(二

十七日~七月十六日。同月三、十日は休み)でも開催し、三会場の出品作を合わせると十五歳から百歳までの三千五百十点になる。全体で最高位の「海部俊樹賞」には、篆刻・刻字部門で「殷鑑不遠」と力強く彫った菱川武さん(一宮市)の作品が選ばれた。同書道会事務局長の横井宏軒さん(〇)は「五部門の作品が一度に並ぶ書道展は珍しい。それぞれの書風を楽しんでほしい」と来場を呼びかけた。入場料は全会場共通で三百円。高校生以下は無料。(北川鈴乃)

第七十二回中日書道展 講評

造形主義と表現主義——第七十二回中日書道展に思う——



名誉顧問 西嶋慎一

近代の書論家・包世臣は「形質成りて性情あらわる」と言う一句を発している。形が定まると「ころばえ」が表われるというのだ。漢字につめて表わすと「心慕手追」となるこのフレーズは、王羲之以来書芸術を成立させてきた大原則だ。

今回の中日書道展を参観し、幹部の先生方の作品を観て思わず包世臣のこの句を思い出した。樽本樹郎は北魏書の巧者である。一筆々に力を込めて規矩正しい楷書作品を産み出す。今回の「傲散喜端居」は叙情性が見えるではないか。技法や構成だけでなく「表現」をも意識する快作だ。伊藤仙遊、鬼頭翔雲、加藤子華も然りだ。後藤汀鶯、梶山夏舟には本来持つ叙情性にみ

がきがかかっていた。詩文書にも、この「表現」を重んずる風が見える。つまり、より読み易さが前面に出る。造形主義を重んじて、えてして可読性がおろそかになる反省が見えるのではないか。安藤滴水、黒田玄夏、加藤裕がそうだし、次世代の川合玄鳳、後藤啓太、武内峰敏も表現、つまり可読性を重んじる。加

藤裕の才腕がこの方向に発揮されるのは好ましく、賛成だ。

長老の安藤秀川は余裕、老いを見せない。中林路風、早川泰山は一格、こう書いて来て土屋陽山、平松紫雲の不在を淋しく思う。松永清石、伊藤昌石はこの二長老の後をおそって欲しい。

松下英風、岩田潤流、古川昇史は翠軒流の秀俊だが、筆が流れ過ぎてはいまいか。もっと線を磨き上げる用筆を意識したいものだ。

近藤浩乎は橘曙覧の歌だ。ならば読めなければならぬ。技法の兼ね合いが味噌だ。迷いの無いのが山本雅月、読売書法展準大賞の自信が作品にみみぎる。馬場紀行は筆が立った雄作。波切童州、廣澤凌舟は筆を割り過ぎではないか。水野峯翠は盛り上がりが見える。川崎尚麗は筆が細やかだ。土屋陽山の後系として期待したい。書き行く力を示したのが佐野翠峰、工藤俊朴、武内峰敏だ。

岡野楠亭・萬寿無疆は刀の味の勝利、規

模の大きな世界だ。鈴木立齋の神龜雖寿の生真面目さとは対照的だ。

横山夕葉は独立の為に気を吐いていた。ベテラン上田賦草が淋しい。師の種村山童が嘆くぜ。樽本門の磯谷凄聴は重厚な行書、技法と表現が相俟った佳作だ。

海部俊樹賞の菱川武は、ずしりと刻り出して篆刻芸術のある側面を押し出している。刀技の緻密さが好ましい。大賞・浜野春瑛は筆運びが堂々としている。技法の修練の上に表現が花咲く好例であろう。準

大賞で奥山由紀の思い切りの良さも目についた。少字数で川

合朋枝、黒柳真実の元気さは好ましい。東海独立の為に頑張つて欲しい。漢字

の大野彩は筆が行きどいていた。佐藤

恵園の字をつめて行を立てる手法は一効果だ。加藤裕子の書き行く力に満ちたかなも一景色だ。

技法と表現の兼ね合いは書芸術を志す者にとり永遠の課題だ。表現を前面に出す制作手法は、近こ

ろ書を志す人の最大関心事と見える。戦

後の書道は造形芸術としての確立を強く意識して来た。以

来、やがて八十年近く、世代も三世を経た。造形主義の美辞にとらわれて、表現がおろそかにされては来なかったか。漢字、かなを問わず、少字数、詩文書でも、また篆刻の世界でも「表現」にどう立ち向うかが大命題になっているかに見える。

しかし、表現は確かな技法修練の上に花開く世界であることを、中日書道会では忘れて欲しくない。技法修練の凄みを期待したい。



中日書道展ご高覧の西嶋慎一先生

第七十二回中日書道展 講評

第七十二回中日書道展の役員作品を見て



美術評論家 菅原教夫

書は線だとよく言われるが、うっかりそのことを失念している場合がないわけではない。つい先だって、ある漢字作品の造形やら大スケールに感心していたところ、側にいた書家から、この人の線は柔らかなのがいいと言われて、なるほどと線を見直した。類似のことは誰もが経験しているらしい。これも最近のことだが、若い友人が仮名書というと墨色や線質ばかりを注意深く見ている、書風というものがあつたに気付かなかつたと私に言ってきた。一点の作品を前に私たちは全身でいるような感覚を得ているものの、意識化されるのはその一部なのだろう。

妙な書き出しになったのは、今回の中日展に際して、やはり線は大切だと思つたからだ。愛知県美術館の展覧会場に赴く前、東京からの新幹線のなかで、事前に事務局から送ってもらつた出品作品の印刷物を眺めていた。そのとき抱いた作品のイメージと会場で見た実作とは、およそ洗刺さという観点から大きな隔たりがあつた。印刷物からはなるほど造形は把握できたが、し

かし線となると実作とは程遠く、したがつて作品の価値、これに対する評価もまったく異なるものになると思つた。作品はやはり現場で体感しなければならぬ。

中部地方の書は東西の有力書流が入り交じり、それぞれの価値を主張し合つていくような所が興味深い。もちろん地域で固有の伝統を築いた門流もあるが、それにしても東西の大きな書流と無関係ではありえない。実際、漢字で言えば東の謙慎書道会系の書風もあれば、西の日本書芸院系のそれもある。最近では日展等の影響のせい、門流別に書を語ることがはばかられるような傾向があるが、なるほど作品行為は個々人のものだとしても、その多くは門流の中で鍛えられ到達したものであつて、したがつてこの根つ子たる門流を回避し過ぎるのはおかしい。子について両親からの影響を避けて語るようなものだからである。

今年の陳列で、謙慎系を代表するのは樽本樹郎の楷書「敬散喜端居」。気ままに風通しのよい縁側にいるのも嬉しいものだとつた意味の梅堯臣（宋）の句で、このた

び旭日小綬章を受章したベテランの目下の心境か。作者は名古屋の地元で中林子鶴の教えを受けた後、青山杉雨に師事、北魏をベースにする重厚な書風を築いて中部書壇の中心となり、多くの後進を育ててきた。本展でも鬼頭翔雲、横井宏軒、磯谷凌聰、山際雲峰らその門人たちの作品は少なくない。ほかに同じ青山系で独自の書風を有する安藤秀川、中林子鶴の系統を継ぐ中林路風やその門人の工藤俊朴、調和体を得意とするも本展では独自の行草を出していた大池青岑、殿村藍田門で筆のよく切れる梶山夏舟ら謙慎系の作家は数多い。

これに対し、日本書芸院系では中日書道会と墨滴会の理事長を務める伊藤仙游が「響不辭聲」の力強い草書を出品。「響きは聲を辭さず」とは発した言葉は等しく聞かえてくるよといった意味か、本作ではとりわけ「辭」字のグイと引いた太い線がいつもでも印象に残つた。また、興朋会はさきごろ平松紫雲を喪つたが、大木青嵐の行草があり、木村知石系ではベテラン加藤子華の鋭さを含んだ三字書が目についた。愛知県はまた鈴木翠軒の出身県であり、したがつてその高弟、松下芝堂の門を中心に翠軒流が広がっている。松下英風の淡墨が舞う二行ものはその代表的な作品であり、伊藤昌石らの重鎮を擁するほか、書風的には加藤矢舟「万葉歌」のように濃い墨を用いて新展開を狙う動きが見られたのが頼もしい。

一方、仮名は関西仮名の流れを汲み、正筆会の馬場紀行、黒野清宇創始の玄之会を牽引する近藤浩平や村瀬俊彦、朝陽書道会（岡山）の山本雅月ら書き手が揃う。また、篆刻では岡野楠亭、鈴木立齋と今日の日本篆刻の屋台骨となる印人たちの力量を示す作が並んだ。

さらに現代書では創玄書道会の有力な作家が集まっている。一昨年の第七十二回中日書道展で文部科学大臣賞に輝いた加藤裕の「海くれて鴨のこまほのかに白し」（芭蕉）を筆頭に、ベテラン安藤滴水、川合玄鳳など会場のあるところ漢字仮名交じりの可読性を意図した近代詩文書の作品に出合った。こうして見てみると、中日書道展は確かに東西の有力な門流が混じり合い、現代日本の書の縮図たる一面を有する書展であることがよくわかる。コロナ明けを感じさせる今年もその盛況を楽しんだ。



中日書道展ご高覧の菅原教夫先生

第七十二回中日書道展 審査総評



審査部長
松下英風

第七十二回中日書道展に入賞・入選されました皆様、この度は、誠にありがとうございます。今回審査部長の大役を仰せつかり、大変光栄と共に責任の重さを実感致しました。審査会場は、電気文化会館五階を貸し切りに行われました。不安はありましたが、幸い役員をはじめ、主任や委員の先生方のご協力を頂き、無事終了する事が出来ました事、深く感謝申し上げます。

今回展より、新たに一科公募出品に於いて、二科公募作品寸法が加わり、出品しやすくなったと感じております。

総出品点数は、三千五百十点であり、昨年よりわずかな減でおさまりました。ご指導されております先生方の深いご理解によるものと思っております。

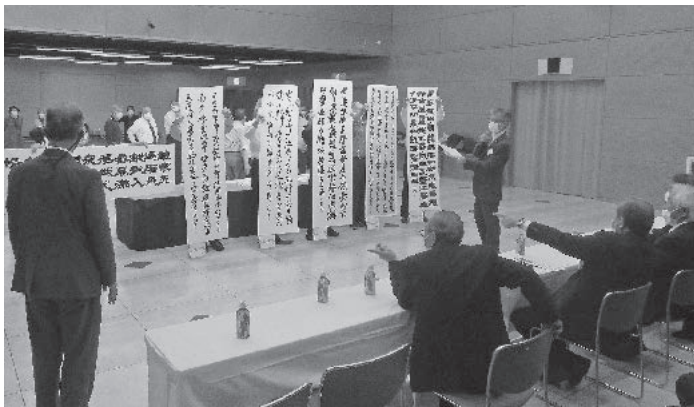
審査は、五月十二日(金)より十四日(日)の三日間の日程の中で、効率的に計画し実施しました。

一科公募作品六百三十七点より、二科公募作品九百六十九点より、それぞれ定められた入賞比率に従い選考して頂きました。

最終日の特別賞選考は、無鑑査作品四百三点より中日賞五点、桜花賞五十八点。また、委嘱作品四百二十四点より、進大賞四十二点選考され、最高賞の海部俊樹賞を五部(篆刻・刻字)の菱川武さんが、大賞を一部(漢字)の浜野春瑛さんが、それぞれ受賞の荣誉に輝きました。

審査は、全体を通して終始一貫した流れの中で進行し、各部共に公明正大にして、慎重なる選考が行われま

した。作品は、古典を基にし、個性的また斬新さが多くあり、そのレベルの高さゆえに甲乙付け難く、特に上位の作品は、厳しい審査となりました。見事入賞された皆様、誠にありがとうございます。惜しくも、後一步で目標とするところに届かなかった方、怯む事無く今後一層のご精進を期待申し上げます。そして、若年層の活躍が、益々心強く思っております。出品者の皆様、さらなるご精進とご活躍を期待しております。最後になりましたが、審査にあたりまして、ご指導ご協力頂きました全ての皆様に、心より感謝とお礼を申し上げ、審査総評と致します。



特別賞選考風景



特別賞選考委員

海部俊樹賞・大賞・準大賞 受賞者紹介

〈作品評〉

松下英風(一部)
村瀬俊彦(二部)
川合玄鳳(三部)
波切童州(四部)
鈴木立齋(五部)

海部俊樹賞

第五部 菱川 武



この度は、第七十二回中日書道展に於いて、『海部俊樹賞』という、とても輝かしい賞を頂戴致し、誠に光栄に思っております。六十代半ばに篆刻の世界に飛び込み、その魅力に引かれ、無我夢中で突き進んで来ました。そしてその奥深さを知る事が出来ました。本当に有難度うございました。

〈評〉

起筆・収筆に、後漢官印の風格が表現された優秀作。



大賞

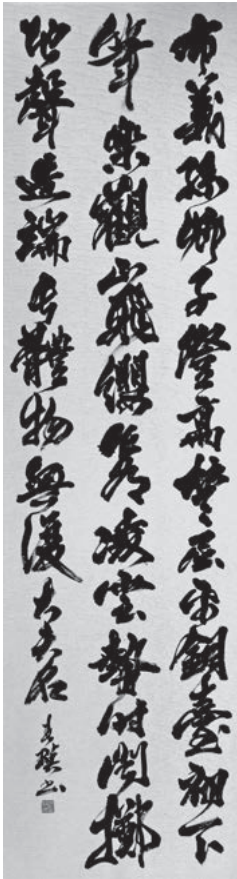
第一部 浜野 春瑛



この度は、第七十二回中日書道展におきまして栄誉ある大賞を賜り誠にありがとうございます。これに偏らずに師匠をはじめ諸先生方のご指導のお陰と心より感謝申し上げます。大賞という朗報に驚きとともに賞の重みに

〈評〉

雄渾で魄力に溢れ、その気骨の強さ、内に秘めた強靱な線、立体感と量感を感じさせる作。



準大賞

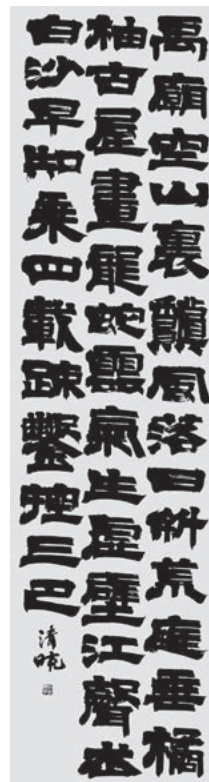
第一部 石川 清暁



この度は第七十二回中日書道展におきまして、準大賞という栄誉ある賞を賜り、喜びの気持ちで一杯です。これも偏に、大恩ある師匠をはじめ諸先生方の適切かつ親身なるご指導に心より感謝すると共に、互いに切磋琢磨し合える書友・

〈評〉

體が方にして敦厚、画は平にして直、拙厚峻秀の氣、整齐で骨氣に満ちた作。



準大賞

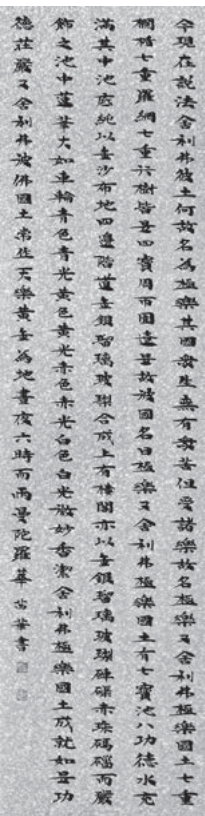
第一部 石田 茜華



この度は素晴らしい賞を頂き、誠にありがとうございます。書道教室にユニークな先生がいるから来てみないと、先輩に誘われて二十余年余り。その間、認知症の父の介護と長年住み慣れた家の引越があり、休講した時もありま

〈評〉

整齐で清新な情趣と格調のある作。



準大賞

第一部 稲垣輝彩



この度は思いがけず準大賞を受賞させて頂きましたこと大変光栄に存じます。

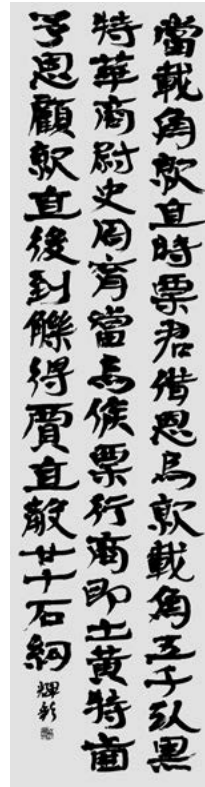
所属する会や社

中の先生方全てが私の師であり、その恵まれた環境下でご指導賜ることはとても幸運なことと感じております。特に社中の先生方には

仲々上達しない未熟な私に厳しくも温かくそして根気よく接し導いて頂きました。お陰様でこの受賞に繋がりましたこと感謝の念に堪えません。知らせを受けた瞬間の驚きそして感動は忘れ難く、益々の精進を重ねる原動力となります。誠に有難うございました。心より感謝申し上げます。

〔評〕

右肩をやや上げて横画を強調した分間布白、線の強弱、ゆったりとした筆の回転のあ



準大賞

第一部 今井夏虹



この度は栄誉ある賞を賜り、誠にありがとうございます。これも偏に、熱心に御指導下さいました師匠をはじめ、諸先生方の励ましのお蔭と心より感謝申し上げます。

作品は、文字の大小、潤濁、余白に留意

し、縦への律動感を表現したく取り組みましたが、まだまだ未熟さを痛感しております。師匠は常に「書の裾野を広げたい」と仰られておられます。その言葉を胸に、今後は更に精進し、微力ではございますが、書道文化の発展に携わってまいりたいと思います。今後ともご指導の程、よろしくお願い致します。

〔評〕

四行の心手一如、技法、情が一体、形姿よく蔵する内なるもののある作。



準大賞

第一部 上松 晨陽



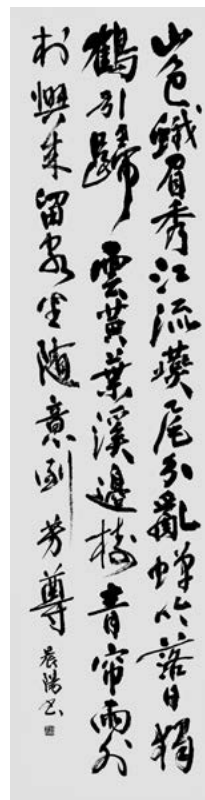
第七十二回中日書道展に於きまして、栄誉ある準大賞を賜り、誠にありがとうございます。思いがけない受賞に嬉しさと驚きでいっぱいでございます。これも偏に熱心にご指導くださる恩師をはじめ諸先輩方のお力添えいただいたお蔭と

い受賞に嬉しさと驚きでいっぱいでございます。これも偏に熱心にご指導くださる恩師をはじめ諸先輩方のお力添えいただいたお蔭と

厚く御礼申し上げます。亡き恩師も「よく頑張ったね。」と喜んでくださっていると思います。作品は余白と潤濁に気を配り取組みました。が、課題は多く未熟さを痛感しております。書道が続けられる環境に感謝し、この賞に恥じぬよう一層精進して参ります。今後ともご指導の程宜しくお願い申し上げます。

〔評〕

起筆、運筆中の線の微妙な変化のある作。



準大賞

第一部 大竹 澄青



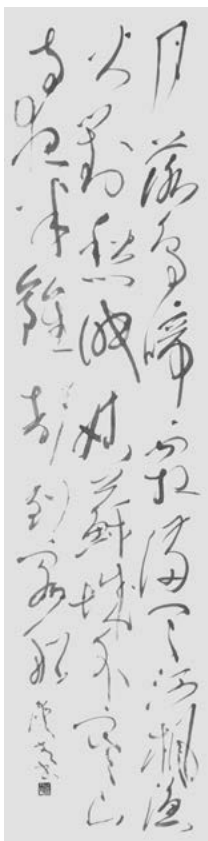
この度は準大賞の栄誉を賜り、身に余る光栄なものと心から厚く御礼申し上げます。師匠からの「お稽古

は休まず続ける」の導きで今日があり、そのお蔭で今回の受賞につながったと深く感謝しております。

「書きたい」と選んだ題材ですが思い通りに書けず悩み続ける中、諸先生方からの根気よいご指導と暖かい励ましのお言葉にも、感謝の念に堪えません。これからは書に触れる時間を増やし、心豊かに書道を楽しめるよう精進して参りますのでご指導の程、よろしくお願い申し上げます。

〔評〕

息の長さ筆圧の変化、重厚と軽妙さのある作。



準大賞

第一部 大野 彩



この度は栄えある賞をいただきありがとうございます。師匠のように躍動感のある、また先輩のように

美しく流れるような字を書きたいと思いましたが、なかなか成長できずに悩んでおりました。しかし今回ご評価いただき、迷いながらも

精進し続けることで少しは成長に繋がるのなら、もう少しがんばってみようと思うことができました。書き続けて行くことは大変なことでもあります。今後も諦めずに理想の書を目指してまいります。未熟な私を受け入れご指導いただける師匠に改めて心より感謝申し上げます。

〔評〕

心閑手敏、精神面の陶冶と良好な環境から出き上がった感動せしめる作。

準大賞

第一部 加藤 文子



この度は、栄誉ある準大賞を頂き、誠に有難うございました。これも偏にご指導いただいた師導下さいました師

匠はじめ、諸先生方のご厚情と深く感謝申し上げます。墨の香りと、筆を持つ凛とした時が好き、

そんな至福の時間も家族の理解と恵まれた環境に、そして良き師にめぐり会えたお蔭と心よりお礼申し上げます。リズムカルな流れ、墨量、行間の余白等々、まだまだ課題は多く未熟さを痛感しております。今回の賞を励みに、より一層精進してまいります。今後ともご指導の程よろしくお願ひ申し上げます。

〔評〕

起筆、運筆、転折の微妙な変化があり、一字の中の疎密、強弱のあるスツキリとした作。

準大賞

第一部 小川 澄光



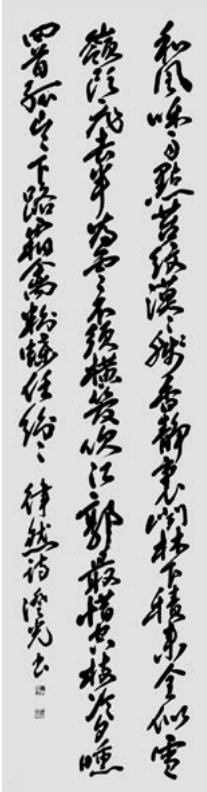
この度は、準大賞という立派な賞を頂き、有難う御座居ました。電報のお知らせに、びっくりし実感が

出来ませんでした。この文章を書きながら受賞の大きさと嬉しさを少しずつ感じております。

日頃の先生の御熱心な御指導と、家族・社中の皆様の御協力の賜と感謝に堪えません。お若い方々の作品の線の強さ、伸びやかさに年齢を感じて居りましたが、この度の受賞を励みにもっともつと努力を重ねなければと痛感致して居ります。今後とも諸先生方には宜しく御指導の程、お願い申し上げます。

〔評〕

文字の大小、線の太細、強弱によって全体に動きと変化のある作。



準大賞

第一部 丸 藤 素 翠



この度は、第七十二回中日書道展におきまして、榮譽ある準大賞を賜り誠にありがとうございます。

思ってもみなかった知らせに本当に驚いております。これも偏に、ご指導頂いた師匠をはじめ、社中の先生方のお蔭と感謝申し上げます。

作品仕上げに当っては、墨量と字の大小に留意して書く事を心掛けました。この受賞に恥じないように、これまで以上に精進努力して参りますので、今後ともご指導の程よろしくお願ひ申し上げます。

〔評〕

墨痕豊か、文字の大小、字間の疎密等、多少のアレンジメントも試みながらの作。



準大賞

第一部 後藤 沼香



この度は中日書道展において栄誉ある準大賞を賜り、誠にありがとうございました。

驚きと感激そして

賞の重みに身の引き締まる思いで一杯です。

これも偏に、幼少より温かく丁寧にご指導くださいました師匠はじめ、諸先生先輩方、

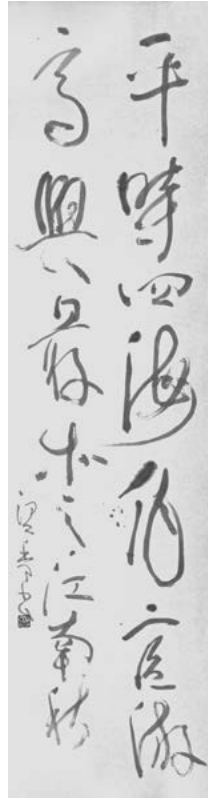
支え応援してくれた家族のお陰と心から感謝しております。

まだまだ未熟な私ですがこの受賞を励みとし、書を学ぶ事の出来る幸せに感謝してより一層精進して参りたいと思っております。今後ともご指導ご鞭撻の程よろしくお願い申し上げます。

運筆の際の呼吸による線の微妙な働きのある作。

〔評〕

今後はこの受賞を励みに、より一層精進しなければと思っております。どうぞよろしくご指導の程お願い申し上げます。



準大賞

第一部 小松 翠 篁



この度は栄えある準大賞をいただき喜びと共に身の引き締まる思いでおります。これも偏にご指導いただき

きました師匠のお陰と心より感謝申し上げます。作品の創作に当たり墨の潤濁、行間の美、

線質などを常に考慮し向かうのですが、毎回研究不足を痛感し試行錯誤を繰り返しております。

今後はこの受賞を励みに、より一層精進しなければと思っております。どうぞよろしくご指導の程お願い申し上げます。

内なるものの発露、伝統の基礎の上に新しい気風が醸成された作。

〔評〕

今後はこの受賞を励みに、より一層精進しなければと思っております。どうぞよろしくご指導の程お願い申し上げます。

準大賞

第一部 佐々木 博 山



第七十二回中日書道展において準大賞を受賞できましたこと誠に身に余る光栄と存じ心から御礼申し上げます。

ます。これも偏に諸先生方のご指導、ご高配のお陰であります。深く感謝いたします。今回の作品は杜牧詩五十六字を行草三行作に制

作しました。日頃は主として王鐸の行草を勉強していますが、最近が高齢により集中力、意欲の無さ、加えて勉強不足で作品制作が思うように出来ませんでした。今後は今回の受賞に恥じる事が無いよう精進します。何卒、今後ともご指導ご鞭撻、賜りますようお願い申し上げます。誠にありがとうございました。

〔評〕

自由で個性豊かな、流動性を高め骨力偏多適麗、情感を紙上に融合させた作。



準大賞

第一部 佐藤 恵 園



師匠と出合い、優しいながらも凛とした書風に憧れ、書の世界へ惹かれていきました。「努力は裏切

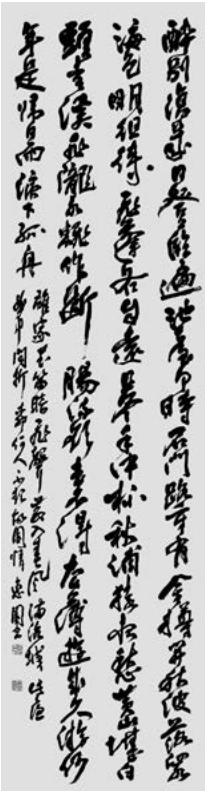
らないよ」の言葉に励まされ、古典の臨書は癒しの時間として楽しく続けることができました。今回の作品は「関連に」という師の言

葉を胸に制作しました。しかし、墨量や字の大きさ・余白のバランス等が上手く表現できず、無我夢中の日々でした。身に余る賞を戴いた喜びを今は亡き師に報告し、更に精進していくことを誓いました。これも偏に、これまで御指導頂きました諸先生並びに諸先輩・書友の皆様のお陰と心よりお礼申し上げます。

骨気が備わり潤いが加味され、しつとりとした妙趣ある作。

〔評〕

骨気が備わり潤いが加味され、しつとりとした妙趣ある作。



準大賞

第一部 西脇 和子



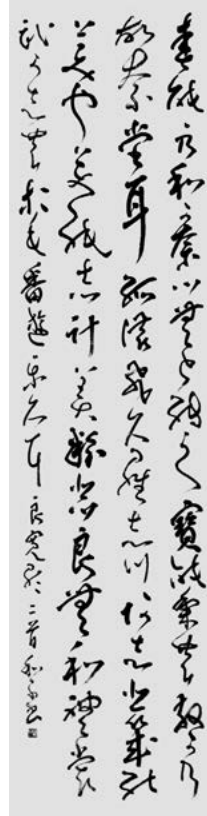
この度、思いがけず準大賞受賞のお知らせをいただき、大変驚くと共に身の引き締まる思いがします。

書道を始め今年で三十年になりました。これまで続けることができたのも、やさしく熱心にご指導下さる先生と、諸先輩はじ

めお仲間の皆さまの温かい励ましのおかげと心より感謝いたしております。ここ数年は良寛の草書を主に勉強してまいりました。なかなか奥が深く、未だ入り口にも到達できておりませんが、今後も精進してまいりますのでよろしくお願いいたします。

〔評〕

恬澹雍容として内に筋骨を涵し、強靱な筆峯を備えた作。



準大賞

第一部 則竹 松慶



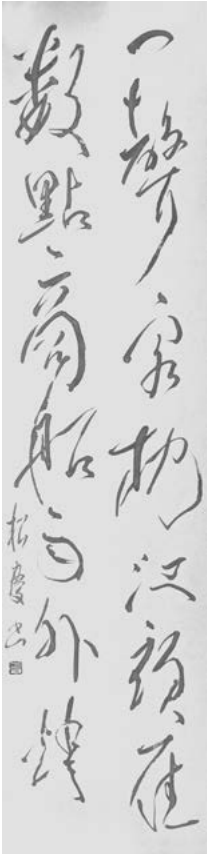
この度は、栄えある準大賞を賜り誠にありがとうございました。ございました。

思いもよらぬ朗報に驚き、喜びを実感する迄に幾分の時を要しました。過分な栄誉に身の引き締まる思いです。「書く事が好き」の一事にて今日まで続けて

これれましたのは、厳しくも暖かい師匠の御指導のお陰であり、深く感謝しております。また、社中の諸先生方、諸先輩方にも多くのお力添えを頂き、心より御礼申し上げます。まだまだ未熟ですが、支えて下さる皆様への感謝を忘れず、この賞を励みとして日々精進を重ねていく所存です。今後ともよろしくお願ひ申し上げます。

〔評〕

剛と柔の要素を組み合わせ調和をはかり変化のある作。



準大賞

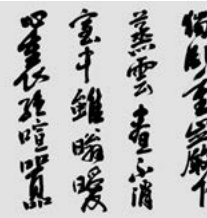
第一部 野崎 華泉



筆の動くリズムと共に真つ新たな紙に墨汁が迸る、それでいて静寂な世界が広がって無になれる、その様な時間が私にとっての書の時間であり、また極上の居心地の良さを体感する時間です。この様な無になる世界を求めて、穏やかな恩師のご指導のお陰ですつと続けて参りました。この度、恩師、社中の先生方の良き道標の元、名誉ある賞を頂くことができ感謝致しております。ありがとうございます。

今改めてこの賞の重さを感じ、さらに身の引き締まる思いであります。今後一層精進して人の心に響く書を追求して行きたいと思っております。

この度は、第七十二回中日書道展におきまして、思いも致しませんでした準大賞をいただき、誠にありがとうございます。これも偏に日頃より、温かいご指導をいただいております。師匠はじめ諸先生、諸先輩の皆さま方のお陰と心より感謝申し上げます。



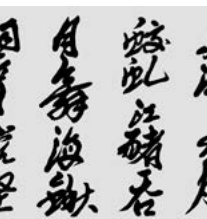
準大賞

第一部 野田 江泉



この度は、第七十二回中日書道展におきまして、思いも致しませんでした準大賞をいただき、誠にありがとうございます。これも偏に日頃より、温かいご指導をいただいております。師匠はじめ諸先生、諸先輩の皆さま方のお陰と心より感謝申し上げます。

四十歳を過ぎてから習い始めました書道ですが、今回頂戴いたしました賞を励みとし、責任と重みをかみしめ、より一層の精進をして参りたいと思っております。



準大賞

第一部 野田 江泉

今後とも変わりがせんご指導を賜りますようよろしくお願ひ申し上げます。

〔評〕

文字の大小、疎密、強弱、遅速等、豊かな量感と流麗な施律を醸している作。



準大賞

第一部 花村 翠 仙



この度は思いがけず栄えある準大賞を頂き大きな喜びと共に、身に余る光栄と厚くお礼申し上げます。こ

れも偏えに師匠はじめ諸先生方、日頃励ましたった書友の皆様のお蔭と深く感謝しております。

子育てが一段落し書を楽しみたいと思つていた所、師の生き生きとした書に出合い入門、以来二十有余年一番の喜びです。コロナ禍で外出もままならない日々を逆手に、作品作りを楽しみました。選文、構成、線質、字形の響きあい等課題が続出でした。今後も楽しみながら精進して参りたいと思つております。御指導の程よろしくお願ひ申し上げます。

〔評〕

清健高雅にとんだ流れのある純雅な作。

準大賞

第一部 日 高 真 弓



この度は、準大賞を賜りまして、大変恐縮しております。これまでご指導いただいた恩師をはじめ、一緒

に学んできた社中の皆様に心から感謝いたします。師匠の温かいご指導は勿論、良き先輩方や

書友に恵まれ、家族の協力のもと、書が続けられたことが何よりの励みになっております。改めて、今後も書を通して様々な勉強をしていきたいと感じました。この賞に恥じないよう身を引き締め、一層精進して参りたいと思つたので、ご指導のほどよろしくお願ひ申し上げます。

〔評〕

一字一字自然な筆の動きの中で渾然融合し一貫した気脈の流れをみせている作。

準大賞

第一部 濱屋 大 樹



この度は第七十二回中日書道展におきまして思いがけなく準大賞を賜り、身に余る光栄に驚きと感謝の念

に堪えません。誠にありがとうございました。これも偏に師匠はじめ諸先生方の温かい御指導の賜物と有難く思っています。今まで

人の倍頑張りとう諸先輩方の書に対する姿勢と日々の鍛錬努力を参考にさせて頂き今日まで楽しく馬力を上げてきました。今回の作品は古典に根ざし大らかで力強くとも稚拙で申し訳なく思いますがこれをはげみに尚一層努力します。今後共御指導よろしくお願ひ致します。

〔評〕

豊潤で抑揚のある運筆、豊かな量感、品位と威厳を漂わせている作。

準大賞

第一部 堀 美 洲



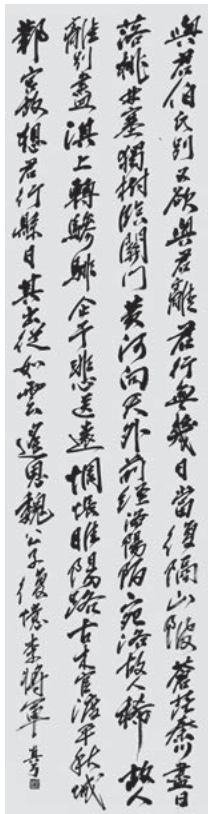
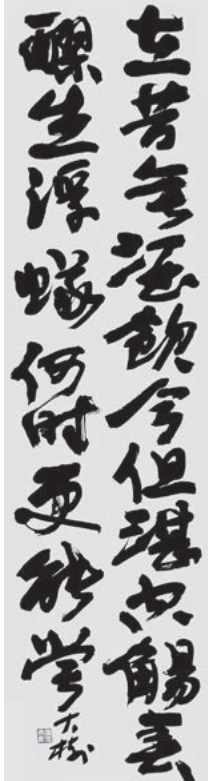
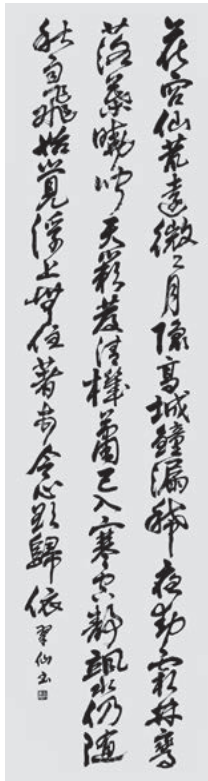
この度は、思いがけず、荣誉ある準大賞を拜受し、驚きと感謝の気持ちでいっぱいです。

これも偏に厳しくも温かく、熱心にお導き下さいました師の御指導の賜だと。また書友の励まし、家族の支えあつての事と、深くお

礼申し上げます。中日書道展に出品し始め十二年余、日々雑事に追われ、練習時間を確保し、継続、努力を心掛けて参りました。受賞を励みに一層精進、研鑽する所存でございます。今後とも御指導下さいます様、宜ろしくお願ひ申し上げます。

〔評〕

右上りの字形、左下方に食い込むように流れる縦画で変化の妙ある作。



準大賞

第一部 松岡 瓊玉



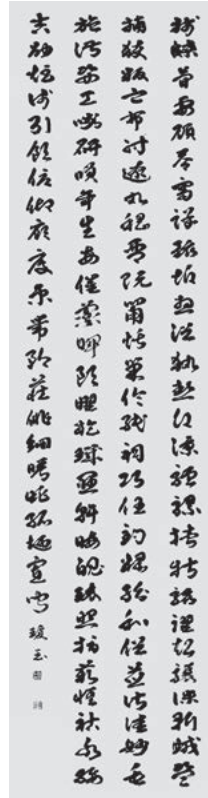
この度は、準大賞という荣誉ある賞を賜りまして誠に有難うございます。

これも偏にいつも温かく見守ってくださる師匠をはじめ諸先生方の御指導あつての事と心より感謝しております。

今回の作品は、明清の行草・単体作品を基本に行間の余白のとり方や墨量を意識し書き上げました。
まだまだ未熟で課題が残るばかりですが、この度の賞を励みに一層精進して参りたいと思います。
今後ともご指導ご鞭撻の程よろしくお願ひ申し上げます。

〈評〉

高雅な気象を備え、形姿よく、荘重な趣を持つ作。



準大賞

第一部 山口 紅鶴



この度は、荣誉ある準大賞という大きな賞をいただき、誠にありがとうございます。

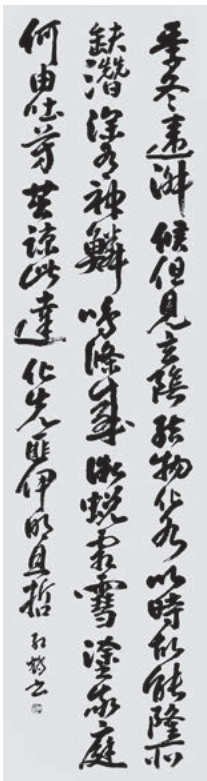
先生方のご指導・ご支援の賜と心より感謝致しております。

強い筆線、墨量、行間、バランス等に、心

掛けて作品作りに取り組みましたが、何度書いても、思う様にならず、未熟さを痛感致しております。
「継続は力なり」と申しますがこれからもこの賞にはじない様、努力して参りたいと思っております。
今後共、よろしくお願ひします。

〈評〉

線質の強さと連筆の呼吸、線の太細と軽重の変化、微妙な転折とあやなす余白の美しさに留意した高雅な作。



準大賞

第一部 村瀬 九葉



この度は、このような荣誉ある賞をいただき、心から光栄に感じております。

これも偏に、ご指導くださる恩師をはじめ、諸先輩方、家族や友人の皆様が、私を支え、励まし、導いてくださったお陰と厚く御礼申し上げます。

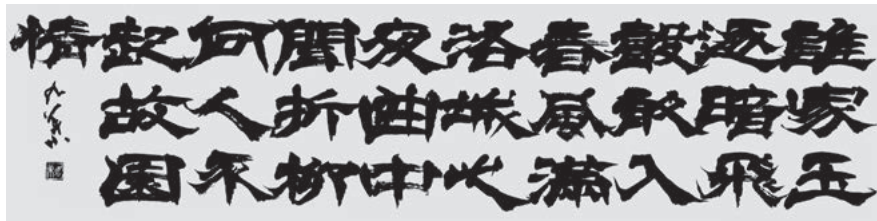
書道は、小学二年の頃より始め、一度高校の時に離れましたが、墨の香りが恋しくなり、また書の道に戻ってきました。

今は育児の合間に書に向かう、ほんのひと時が憩いの時間となっております。

この賞に恥じぬよう、今後とも一層精進してまいりたいと思っております。何卒ご指導ご鞭撻のほど、よろしくお願ひ申し上げます。

〈評〉

字形の整齊、勁健な起筆転折、伸びのある迫力とスケールに富んだ作。



準大賞

第二部 岡戸 保子

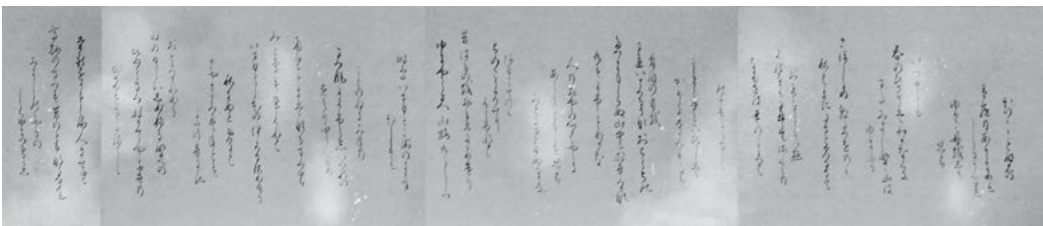


この度は準大賞を賜り誠に有難うございました。思いがけない受賞に驚きと嬉しさで一杯です。これも偏に熱心にご指導下さいました先生のお蔭と厚く御礼申し上げます。かな書道を習い始めて三十年余。病氣や怪我で、お稽古を何度も休みながらも今日まで続けてこられた事は、先生、諸先輩、書友の方々に支えていただいたお陰と感謝しております。初めて卷子で「三十六歌仙」を書きました。

散らし方、墨色の濃淡等まだまだ未熟さを痛感。初心を忘れず基本を大切に精進して参ります。今後ともご指導の程よろしくお願ひ申し上げます。

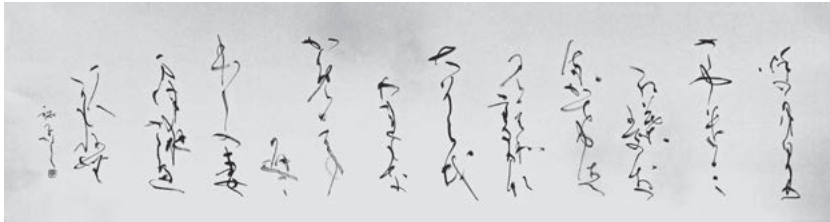
〈評〉

細い線で切れがあり、キリつと引締った作。



準大賞

第二部 加藤 裕子

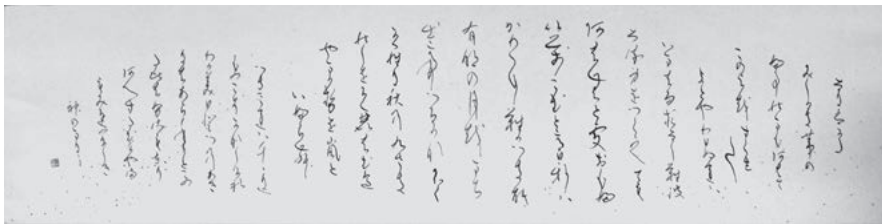


この度の第七十二回中日書道展におきまして栄えある準大賞を賜り誠にありがとうございます。これも偏に、師匠はじめ同門の諸先輩、書友の皆さまのご指導と励まし、そして家族の支えの賜物と心より感謝申し上げます。日頃は大字仮名作品を中心に制作しておりますが、今回は中字仮名作品に挑みました。枚数を重ねるごとに新たな発見もあり、新しい道が拓けた気がしております。この受賞を励みに、より一層精進して参りますので今後ともご指導ご鞭撻の程宜しくお願ひ申し上げます。

〔評〕
筆が良く動き、躍動感のある作。

準大賞

第二部 成瀬 孝子



この度は、第七十二回中日書道展において栄えある準大賞を賜り誠にありがとうございます。これも偏に、長年温かくご指導くださっている師匠・諸先生方のおかげと深く感謝申し上げます。

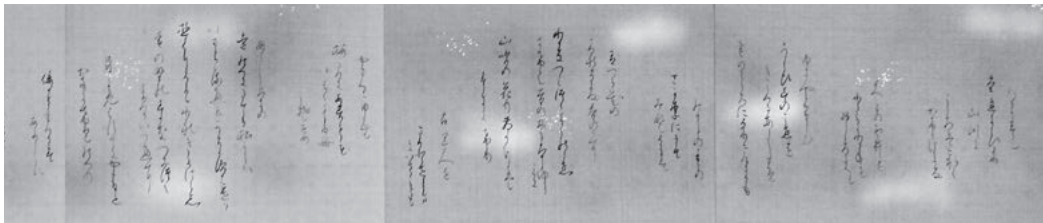
私は主に、元永本古今集より古筆を学び、大字かなの作品を書いておりますが、今回は、小倉百人一首六首を中字かなで挑戦しました。特に盛り上がりの位置をどこにするか大変苦労しました。その作品が思いがけない賞をいただき大変うれしく思っております。

今後この受賞に恥じないよう精進してまいりますので、ご指導の程よろしくお願ひ申し上げます。

〔評〕
柔和な線で、ユツタリと書けている。

準大賞

第二部 橋本 富子



この度、第七十二回中日書道展に於きまして、準大賞を賜りましてありがとうございます。これも偏にいつもやさしく熱心にご指導下さいました恩師はじめ書友皆様の支えのおかげと心より感謝申し上げます。

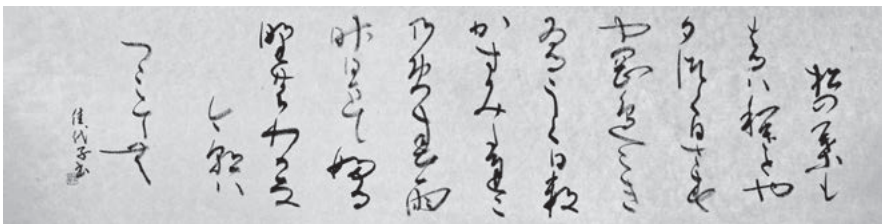
作品は「良寛」さんの心のあたたかさや情景をうかべ先生の美しい字体に近づけて表現出来たらと思いつながら練習しましたがまだまだ未熟さを痛感しております。

この賞に恥じぬようなお一層精進して参りたいと思っております。今後共何卒よろしくご指導ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

〔評〕
線に抑揚があり、流れの良い作。

準大賞

第二部 吉村 佳代子



この度は、栄えある賞をいただきまして誠にありがとうございます。これも偏に、長年にわたり熱心にご指導くださいました師をはじめ、諸先生方のあたたかいご厚情と深く感謝し、心からお礼申し上げます。大好きな書の道を進むほどにその奥深さを知り、自分の未熟さを痛感する毎日です。この賞を励みに、書に向き合う時間を大切に精進して参りたいと思っております。

今後ともご指導ご鞭撻くださいますよう、よろしくお願ひ申し上げます。

〔評〕
筆が立ち、行の流れ良く強さを感じる作。

準大賞

第三部 池上 創



この度は、準大賞という大変栄誉ある賞を賜り、驚きと喜びの気持ち一杯です。誠にありがとうございました。

「お習字」として幼い頃に始めた習い事が、その過程において様々な書体を学び、作品制

〔評〕

リズムに乗った切れ味の良い線。颯爽としており快作！



準大賞

第三部 太田 紫玉



この度は栄えある準大賞を賜り誠に有り難うございました。思いがけない受賞に驚きと喜びの気持ち一杯

杯でございます。これも偏に何時も丁寧で熱意あるご指導いただいています師匠、諸先生方、社中の皆様のお蔭と心より感謝申し上げます。

〔評〕

今回の作品は自然界の身近な小さな生物の世界が表現されています。墨量、繊細な筆の動き起筆のかすれなど又雄大さと繊細さを心掛け何枚も書き上げました。この賞の重みを実感しこれからも新たな気持ちで精進して参ります。今後共ご指導の程よろしくお願い申し上げます。

〔評〕

緩やかな運筆、巧みな筆捌きは心のゆとりからか。



準大賞

第三部 石川 桃露



この度は準大賞という栄えある賞を頂き誠にありがとうございます。思いがけない受賞に通知が手元にある今でも信じられません。

作品制作時に師匠からハツラツと！弾んで書こう！という指導を頂きます。

今回の作品は諸先輩方の作品制作にむかう姿勢から受けた刺激のままにエイヤツと書いた作品です。

その作品での受賞は審査にあたられた先生方に背中を押して頂いた様で嬉しく、またこの賞に見合う作品を書いていかなければならないと身の引き締まる思いです。未熟者ですが、今後も御指導賜りますようお願いいたします。

〔評〕

造形的にも線質的にも現代感覚に満ち溢れた楽しい作。



準大賞

第三部 河合 美玲



この度、身に余る賞の朗報を頂きとても驚き「準大賞」受賞に身の引き締まる思いです。これも師匠をはじめ社中の皆様、そして審査に

当って下さいました先生方のお陰と深く感謝の気持ちでいっぱいです。この春、旅立たれてしまった

恩師に報告できました事も感謝いたします。思うように筆が運ばず創作する難しさを痛感しております。

書は忙しい毎日の中で自分との向合う静かな時間を作りだしてくれました。まだまだ未熟ではありますがこの賞に恥じない様一層精進して参りますのでご指導ご鞭撻のほど宜しくお願い致します。

〔評〕

縦横無尽に筆が動き浮沈の変化にも富んだ優しい作。



準大賞

第三部 奥山由紀



この度は、準大賞という素晴らしい賞を頂き、誠にありがとうございます。突然の電報に驚き嬉しさ

感謝の気持ちがおこみ上げてきました。これほどに師匠始め諸先生方のお陰と心より感謝しております。今回の作品は原稿作り

を丁寧にして、自分らしさを表現する為に全体を使って勢いを出し、緩急、潤濁をつけて書くことを心掛けました。今までの中で一番好きな作品となりました。更に賞まで頂いたことは非常に嬉しく思います。今後も師匠の『意志ある作品に！』を心掛けて精進していく所存です。今後ともご指導よろしくお願ひ申し上げます。

〈評〉

大胆な構成に見えるも、計算され尽くした作品に脱帽。



準大賞

第三部 下村佳風



この度は、中日書道展におきまして準大賞を賜わり誠にありがとうございます。これも偏に師匠、諸先生

方、書友の皆様のお蔭と感謝しております。書を通じての人との出会い、詩歌との出会い。こうした新しい出会いにときめきを感じ

ながら書作出来る事を大変ありがたく思っております。この受賞を励みに更に精進して参ります。今後とも御指導の程よろしくお願ひ申し上げます。

〈評〉

流れを求めた文字の造形力と、墨の載せ方が上手い。



準大賞

第三部 萩原由希子



この度は栄えある準大賞を賜り誠にありがとうございます。桜が満開になると祖母を車の助手

席に乗せ市内の名所を周り、帰ってすぐに中日書道展の作品作りに取り組むことが毎年の恒例でした。今回はそんな祖母との思い出に

ちなみ、桜をはじめ花の名前が入った題材で五種類程の作品の練習を重ねました。社中の諸先生方の御指導のおかげで最終的に出品に至った作品が身に余る結果となり、十月に亡くなった祖母も一緒に喜んでくれていると思います。大変恵まれた環境で学べることに感謝し、これからも精進して参ります。

〈評〉

落筆の高さから生まれた大胆な筆の開閉に魅力あり。



準大賞

第三部 舟戸海鷗



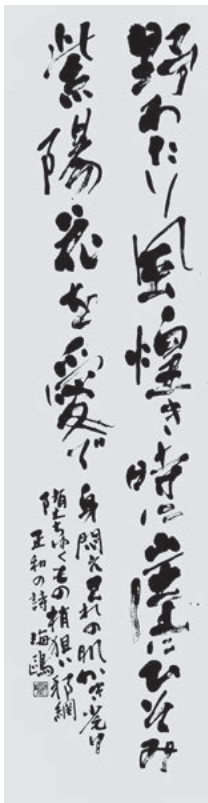
この度は、栄えある準大賞を賜り誠にありがとうございます。これほどに幼少の頃より温かく熱心

にご指導下さいました師匠をはじめ、社中の諸先生方、諸先輩方のお陰と心より感謝申し上げます。

小学一年生の時に書道を始め、今や書道は私の生活の一部として深く根付いています。しかし、年数を重ねれば重ねるほど書道の奥深さや難しさを目の当たりにし、自らの未熟さや日頃の勉強不足を痛感するばかりです。今後ともこの受賞を励みに、今回の榮譽に恥じぬよう一層精進してまいります。ご指導ご鞭撻のほどよろしくお願ひ申し上げます。

〈評〉

温かな線で淡々と書き上げていくリズムが素晴らしい。



準大賞

第四部 川合朋枝



この度は、準大賞という榮譽ある賞をいただき誠にありがとうございます。思いがけない吉報に、大きな

驚きと喜びで胸がいっぱいでございます。子どもの頃から今日まで、師匠の温かいご指導のお陰で書道が続ける事ができました。仕事や育児で思うように筆を持つ時間が取れずにいた時も、優しく見守り励ましていただきました。書の道はまだまだこれからです。この賞を励みに一層努力してまいりますので、今後ともよろしくお願ひ申し上げます。

〈評〉

生命感ある作品。線の潤渇が自在で、墨色美しい。長年努力が実を結び花開いた見事な佳作。



準大賞

第四部 黒柳真実

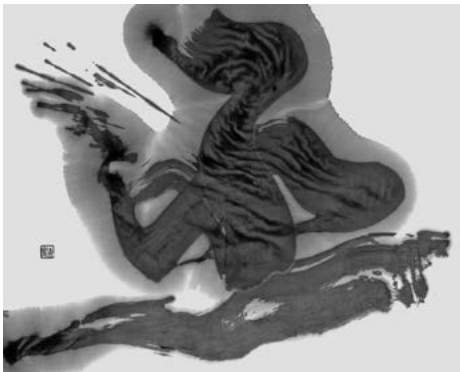


この度は、榮譽ある準大賞を賜り、誠にありがとうございます。今回の作品は、子供の名前から一

文字「丞」を取り題材にしました。思いを込めて命名した大切な一字ですので、なおのこ と嬉しく思います。何度書いても上手く書けず、力量の無さを痛感しました。最後まで熱心にご指導くださりました師匠に感謝し、いつも支えてくれる家族ともによりこび、一層精進して参ります。今後ともご指導の程よろしくお願ひ申し上げます。

〈評〉

元氣溢れる力強い作品。墨色多彩で紙面の構成もよく、伸びやかで、静、動合わせ持つ逸作。



準大賞

第五部 斎藤 矧川



今回の出品作品は、長年取り組んできた徐三庚の奇逸な書体に影響を受け、書法及び篆刻への表現を模索

して参りました。今回このような身に余る賞をいただき感謝と共に受賞の重みを痛感しております。これまで熱心にご指導下さいました師をはじめ諸先生方のご厚情に心より御礼申し上げます。今後も篆刻という方寸の世界を楽しみながらより一層の精進を重ねて参りたいと思います。何卒ご指導ご鞭撻の程よろしくお願ひ申し上げます。

〈評〉

小篆を用い七文字を三行に纏めた調和のとれた秀作。



準大賞

第五部 帯刀 溪石



この度、第七十二回中日書道展において、榮譽ある準大賞を賜り身の引き締まる思いでございます。これ

も偏に長年にわたり、ご指導いただきました師をはじめ、社中の皆様方や諸先輩方のお陰であり、心より感謝申し上げます。定年退職後の楽しみの一つとして始めた篆刻。その方寸の世界における奥深い芸術性に魅せられて二十年程になりますが、まだまだ浅学の身であります。今回の受賞を励みとして、なお一層精進してまいりたいと存じますので、今後ともご指導を賜りますようお願い申し上げます。

〈評〉

古典の風格を基礎としながら現代性を内包した秀作。





大賞・準大賞（一部）受賞者



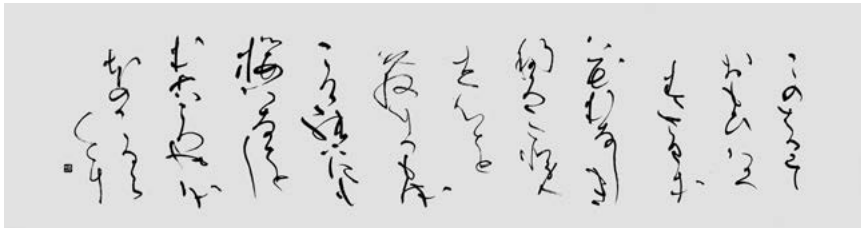
海部俊樹賞・準大賞（二部～五部）受賞者



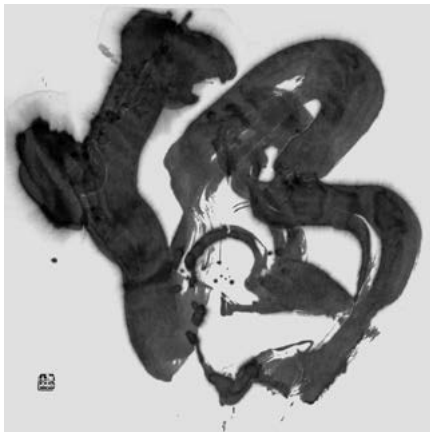
中日賞・桜花賞（一部）受賞者



中日賞・桜花賞（二部～五部）受賞者



第二部 中日賞 柴田 惠美子



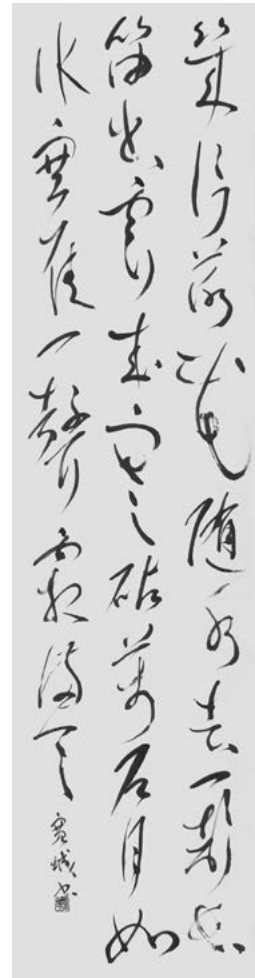
第四部 中日賞 鈴木 諧 玄



第五部 中日賞 加藤 清 城



第三部 中日賞 上中 千 尋



第一部 中日賞 花木 寛 城

中 日 賞

桜花賞

第一部 桜花賞 荒川昌龍

桜花賞 荒川昌龍
如月風掃殘雲
如月風掃殘雲
如月風掃殘雲

第一部 桜花賞 今井翠柳

桜花賞 今井翠柳
如月風掃殘雲
如月風掃殘雲
如月風掃殘雲

第一部 桜花賞 太田美楓

桜花賞 太田美楓
如月風掃殘雲
如月風掃殘雲
如月風掃殘雲

第一部 桜花賞 大嶽旭華

桜花賞 大嶽旭華
如月風掃殘雲
如月風掃殘雲
如月風掃殘雲

第一部 桜花賞 小笠原澄遠

桜花賞 小笠原澄遠
如月風掃殘雲
如月風掃殘雲
如月風掃殘雲

第一部 桜花賞 奥村恵美子

桜花賞 奥村恵美子
如月風掃殘雲
如月風掃殘雲
如月風掃殘雲

第一部 桜花賞 粕谷芳翠

桜花賞 粕谷芳翠
如月風掃殘雲
如月風掃殘雲
如月風掃殘雲

第一部 桜花賞 加藤生子

桜花賞 加藤生子
如月風掃殘雲
如月風掃殘雲
如月風掃殘雲

第一部 桜花賞 加藤新葉

桜花賞 加藤新葉
如月風掃殘雲
如月風掃殘雲
如月風掃殘雲

第一部 桜花賞 兼子圭葉

桜花賞 兼子圭葉
如月風掃殘雲
如月風掃殘雲
如月風掃殘雲

第一部 桜花賞 荻谷有美

桜花賞 荻谷有美
如月風掃殘雲
如月風掃殘雲
如月風掃殘雲

第一部 桜花賞 久保山碧楓

桜花賞 久保山碧楓
如月風掃殘雲
如月風掃殘雲
如月風掃殘雲

第一部 桜花賞 熊澤松湖

桜花賞 熊澤松湖
如月風掃殘雲
如月風掃殘雲
如月風掃殘雲

第一部 桜花賞 倉橋澄雨

桜花賞 倉橋澄雨
如月風掃殘雲
如月風掃殘雲
如月風掃殘雲

第一部 桜花賞 小島夕弦

桜花賞 小島夕弦
如月風掃殘雲
如月風掃殘雲
如月風掃殘雲

第一部 桜花賞 正徳李泉

桜花賞 正徳李泉
如月風掃殘雲
如月風掃殘雲
如月風掃殘雲

第一部 桜花賞 陣内華苑

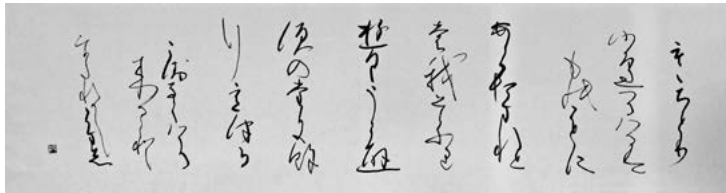
桜花賞 陣内華苑
如月風掃殘雲
如月風掃殘雲
如月風掃殘雲

第一部 桜花賞 高木美杏

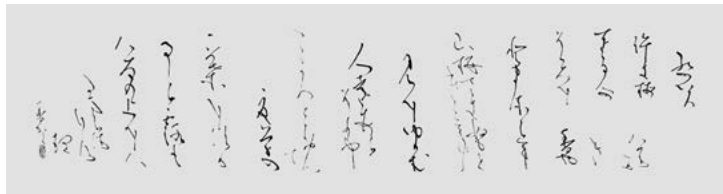
桜花賞 高木美杏
如月風掃殘雲
如月風掃殘雲
如月風掃殘雲



第二部 桜花賞 宇都野 美代子



第二部 桜花賞 児玉 和江



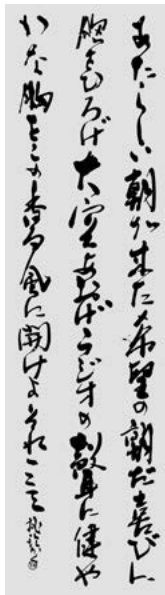
第二部 桜花賞 田中 かおる



第二部 桜花賞 吉村 真由美



第三部 桜花賞 高橋 麗水



第三部 桜花賞 鈴木 桃玲



第三部 桜花賞 酒井 彩加



第三部 桜花賞 久世 たか子



第三部 桜花賞 采女 紅楓



第三部 桜花賞 伊荊 恭子



第三部
桜花賞
若山思鵬



第三部
桜花賞
松原楽朋



第三部
桜花賞
鳥居柳清



第三部
桜花賞
土井秀栖



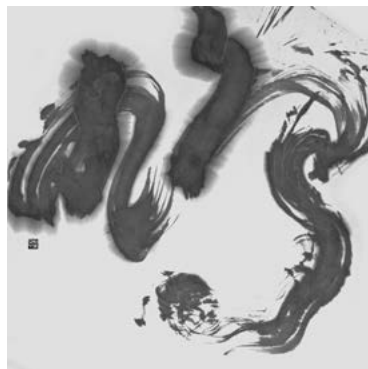
第三部
桜花賞
田中夕穂



第三部
桜花賞
花田佳子



第三部
桜花賞
徳倉江舟



第四部
桜花賞
加奈子



第四部
桜花賞
志賀禾州



第五部
桜花賞
小林有希



第五部
桜花賞
久保田 俊子



第五部
桜花賞
貴島小舟

中日賞・桜花賞作品評

第一部(漢字)

大池 青岑
横井 宏軒 評

〈中日賞〉

○花木 寛城

清澄な筆線、運腕遠勢の息遣いある淡墨の優作。

〈桜花賞〉

○荒川 昌龍

淡墨にて緩急深淺の変化あり、幽境の快心作。

○今井 翠柳

筆圧勁く紙に食い入り、潤

揚あり、沈着あり。

○久保山碧楓

結体引き締まり、重厚感と躍動感を表現。

○熊澤 松湖

強く墨を入れ、次第に墨が洩れてゆくさまに妙味。

○倉橋 澄雨

縦への線を強調し、行の流れが自然。

○小島 夕弦

筆圧を強くかけ、運腕遠勢、スケールの大きな作。

○清水 愛苑

墨をしつかり落とし込み、横への広がりや悠揚たり。

○正徳 李泉

詩情を解しながら、坦々とした筆致が気持ちよい。

○陣内 華苑

序破急を思わせる構成で、気合いを感じる作。

○高木 美杏

淡墨で洗練されたタッチで流麗で格調高い作品。

○田中 青苑

墨量豊かで筆力があり、重量感溢れる力作。

○鳥井 薫

隷書の特徴を良く捉え、横

画の波勢も良く書かれている。

○長江 稔華

重厚な筆力で文字の大小を有効に、行間美を表現した力作。

○中西 晶聲

穏やかにして重厚な線筆、行間の取り方が旨い秀作。

○中西 瑤花

重厚かつ力強い筆圧であり、文字の大小も配置も見事。

○野妻 玉翠

隷書の基本構造が良く書かれ、墨量豊かで力強い作。

○長谷川瑞鳳

六朝楷書の特徴を良く捉え、墨量・筆圧のある力作。

○長谷川清光

深みのある豊潤な線筆で、文字の大小の配置も良い。

○半谷 恵風

字間を詰めて行間をすっきりさせ、流れを旨く書かれている。

○平川 彩舟

運筆・送筆に筆力・重厚さがあり、行間の生かし方も良い。

○藤木 秀華

穏やかな運筆で墨量も豊かで、行間の美しさを表現している。

○夫馬 恵舟

墨量の潤渇を生かし、巧みに筆圧も加えた運筆の作。

○星川 朝香

淡墨で流暢な筆法で、流動感を良く表現している。

○松田 香雨

金農の特徴を良く捉え、横画・縦画を鋭く書いた力作。

○水野 百花

行間をすっきり空け、文字の変化を巧みに書いている。

○南谷 暉秀

軽快なタッチで書かれ、紙面の構成をうまく纏めている。

○梁川 美舟

墨量の潤渇を旨く表現し、筆圧が力強く充実した作品。

第二部(かな) 村瀬 俊彦 評

〈中日賞〉

○柴田恵美子

筆の動きが大きく、リズム感のある作。



一部審査風景

○刈谷 有美

筆の上下運動を生かし、抑風格の作。

○兼子 圭葉

右下へ重心をかけ、独特の線に切れ味あり。

○加藤 新菜

重厚かつダイナミックな躍動感が魅力。

○加藤 生子

枯淡たる懐素の風韻を思わせる。筆力絶妙。

○粕谷 芳翠

明快で伸びやかな運筆、文字大小変化の妙あり。

○奥村恵美子

淡墨の温かみのある豊かな線の中に強い意志を感じる。

○小笠原澄遠

緻密で字間の呼吸絶妙。写経体の運筆のリズムよく、

○大嶽 旭華

行間の余白も美しい。

○太田 美楓

渴の妙味ある淡墨作品。

揚あり、沈着あり。

○久保山碧楓

結体引き締まり、重厚感と躍動感を表現。

○熊澤 松湖

強く墨を入れ、次第に墨が洩れてゆくさまに妙味。

○倉橋 澄雨

縦への線を強調し、行の流れが自然。

○小島 夕弦

筆圧を強くかけ、運腕遠勢、スケールの大きな作。

○清水 愛苑

墨をしつかり落とし込み、横への広がりや悠揚たり。

○正徳 李泉

詩情を解しながら、坦々とした筆致が気持ちよい。

○陣内 華苑

序破急を思わせる構成で、気合いを感じる作。

○高木 美杏

淡墨で洗練されたタッチで流麗で格調高い作品。

○田中 青苑

墨量豊かで筆力があり、重量感溢れる力作。

○鳥井 薫

隷書の特徴を良く捉え、横

画の波勢も良く書かれている。

○長江 稔華

重厚な筆力で文字の大小を有効に、行間美を表現した力作。

○中西 晶聲

穏やかにして重厚な線筆、行間の取り方が旨い秀作。

○中西 瑤花

重厚かつ力強い筆圧であり、文字の大小も配置も見事。

○野妻 玉翠

隷書の基本構造が良く書かれ、墨量豊かで力強い作。

○長谷川瑞鳳

六朝楷書の特徴を良く捉え、墨量・筆圧のある力作。

○長谷川清光

深みのある豊潤な線筆で、文字の大小の配置も良い。

○半谷 恵風

字間を詰めて行間をすっきりさせ、流れを旨く書かれている。

○平川 彩舟

運筆・送筆に筆力・重厚さがあり、行間の生かし方も良い。

○藤木 秀華

穏やかな運筆で墨量も豊かで、行間の美しさを表現している。

○夫馬 恵舟

墨量の潤渇を生かし、巧みに筆圧も加えた運筆の作。

○星川 朝香

淡墨で流暢な筆法で、流動感を良く表現している。

○松田 香雨

金農の特徴を良く捉え、横画・縦画を鋭く書いた力作。

○水野 百花

行間をすっきり空け、文字の変化を巧みに書いている。

○南谷 暉秀

軽快なタッチで書かれ、紙面の構成をうまく纏めている。

○梁川 美舟

墨量の潤渇を旨く表現し、筆圧が力強く充実した作品。

第二部(かな) 村瀬 俊彦 評

〈中日賞〉

○柴田恵美子

筆の動きが大きく、リズム感のある作。



二部審査風景

第三部 近代詩文 川合 玄鳳 評

〔中日賞〕

○上中 千尋

粗密の差と直線が作品を締め、また大きく見せた傑作。

〔桜花賞〕

○伊苺 恭子

破天荒な造形と動きに、荒さを見せるも魅力あり。

○采女 紅楓

墨量と浮沈の変化に富み、立体感のある作とした。

○久世たか子

計り知れない運腕の動き、浮沈の変化が凄い！



三部審査風景

○酒井 彩加

大胆な筆致に、紙面に向う姿勢、気持ちの強さを観る。

○鈴木 桃鈴

どこことなく涼しげでさっぱりとした味わいが心地良い。

○高橋 麗水

弾力に満ちた厚い線質に魅力と心の強さを感じる。

○田中 夕穂

工夫された造形と心地よいリズム、流れに心弾む。

○土井 秀栖

特別な色を付けぬ穢れなき純粋な作風は爽やかで良い。

○徳倉 江舟

紙面構成、詩文の表現、筆致が計算され佳作。

○鳥居 柳清

正面切って堂々と書きあげた力作。素晴らしい。

○花田 佳子

飄々とした味わいが良い。最後の処理も憎い程上手い。

○松原 楽朋

木簡隸をイメージさせる明るく動きのある作で佳作。

○若山 思鵬

大字と小書きのバランス良く、紙面下へ流れを生んだ。

第四部 少字数 波切 童州 評

〔中日賞〕

○鈴木 諧玄

側筆で筆の開閉が自在。中心部に白を意識して終筆を軽く抜いたのは見事。今後に期待する。

〔桜花賞〕

○志賀 禾州

筆使い流麗で自然で美しい。墨色よく広がりを見せ、心の扉を開いた様な気品あふれる作。

○林 加奈子

スケールある作品で、特に隣の「鳥」伸びやかで魅力溢れる作。ただ雅印の位置



四部審査風景

に一考あれ。

第五部 篆刻刻字 鈴木 立齋 評

〔中日賞〕

○加藤 清城

真摯に作品に取り組んでいる姿勢が垣間見える秀作。

〔桜花賞〕

○貴島 小舟

大胆に且つ楽しく刻されていて、見ていて心地好い。

○久保田 俊子

漢印の朱白相間印の風格が良く表現されている佳作。

○小林 希希

甲骨文字を用いて多字数の印文を丁寧に纏めた秀作。



五部審査風景

一科・二科入賞者

一科

第一部 (漢字)

山村 満園 三浦 藤野 廣野 中川 樋宮 高橋 千田 鈴木 杉浦 清水 佐橋 小林 後藤 喜多村 河合 加藤 加古 岡本 岩田 井上 伊藤 伊藤 荒川 南谷 早川 鈴木 梶原 井本 伊藤 推
 美穂 徑秀 希杏 佳乃 美翠 陽風 春光 美翠 佑至 未歩 光麗 聡志 朱音 香名 美風 羅文 紅霞 紅秋 惠萌 亞実 寅起 清風 玲雨 恒雄 紫眺 薪水 白扇 流泉 翔雲 如扇 彩瑤 千游 祥葉
 横井 森 宮地 水谷 藤戸 藤田 日高 永井 土田 棚橋 祖父江 鷺見 杉山 清水 柴田 阪田 後藤 児玉 川本 加藤 笠松 小椋 江崎 今井 犬塚 伊藤 飯田 安井 早川 野口 加藤 江端 今井
 霞光 亜李沙 八千代 峯文 祐成 琴乃 玲苑 有里子 紅蘭 虹燕 清香 水僊 華香 紅葩 峰月 由城 研真 紫芳 雄大 清樹 冬葩 結理 鴻仁 華翠 柏陽 桃華 瑞葵 嶺花 穂香 理加

準特選

寺田 辻村 田中 武田 武田 高森 杉浦 杉浦 島崎 澤田 佐藤 佐藤 坂口 近藤 黒澤 熊切 木本 木下 河出 柄澤 門松 片岡 小田 奥野 大山 大島 大迫 岩本 今村 今枝 井上 伊藤 石原 飯田 相崎 吉川
 雅彦 麗湖 恵翠 春雪 佳風 良鴛 恵情 直照 梨沙 麗香 瑤月 紫榮 丹華 鶯雅 美翠 純暇 有理 桃香 長女 信一 静紗 蘭泉 哲廣 葉月 華穂 大橋 大澤 大池 岩本 今村 今枝 井上 伊藤 石原 飯田 相崎 吉川
 土井 土本 谷代 田口 武田 田本 杉浦 杉浦 島崎 重野 里中 佐藤 佐藤 近藤 幸村 栗山 久野 木村 鬼頭 狩生 金屋 加藤 鬼塚 尾崎 小笠原 大橋 大澤 大池 岩本 今村 今枝 井上 伊藤 石原 飯田 相崎 吉川
 祥泉 珠星 順子 鴻雨 芳麗 和代 春純 高棲 紅華 青葩 汀翠 香月 玉羹 万嬉 生麗 有里 央 芳泉 清妍 喜峰 佳香 涼舟 美苑 浩生 那由 澄景 純子 流秀 千寿 清真 映舟 桜花 花泉 渡辺 康子

秀逸

加藤 加藤 加藤 小川 岡崎 大島 梅村 内海 宇佐見 上田 稲垣 伊藤 井出 五十川 石黒 安福 浅野 渡辺 渡辺 脇田 横井 山田 山口 安田 村上 水越 右高 松原 前野 堀野 深谷 平野 早川 浜島 花井 羽田 野々川 野口 丹羽 丹羽 西尾 中村 中島 富田
 里菜 千冬 華容 香風 真理 海舟 香苑 静蓮 清楓 舞夏 翠晨 陽子 朱翠 真泉 映華 妃翠 大麥 采藍 佳汀 涼泉 翠螢 麗花 澄映 鈴雪 信子 秋豐 杏華 堀野 深谷 平野 早川 浜島 花井 羽田 野々川 野口 丹羽 丹羽 西尾 中村 中島 富田
 加藤 加藤 加藤 小川 小川 大林 大川 馬場 内山 植村 稲積 伊藤 伊藤 居初 石田 池阪 新井 渡會 渡野 若山 山本 山崎 山内 森下 水野 水越 參川 松浦 堀野 舟橋 平松 坂野 浜島 花井 服部 野村 野田 能見 丹羽 二宮 西尾 長畑 外山
 玲紅 夢菴 清菴 敦子 霞風 虹翠 春蘭 紗都 静露 梅山 稚子 祥子 江陵 李舟 圭月 翠眉 祥雲 敬月 春翠 芝春 康貴 春枝 翠巒 美影 錦 翠子 陽菜 秀巖 華峰 清順 綠楓 千代子 幸子 明翠 里苑 和子 繁子 珠華 啓練 白桜 美苑 景佳 清楓 優奈

渡邊 吉川 山田 山岡 森川 村上 溝口 松永 松井 星野 日比野 服部 服部 則竹 西岡 中村 中村 長澤 富田 寺尾 土屋 津坂 田原 谷口 田中 舘中 竹村 高橋 住田 清水 塩野 佐藤 酒向 小林 後藤 河和 黄窪 窪田 榑田 木村 木島 川添 神谷 上ヶ平 香山
 照花 佳子 西寧 沙月 東雲 庸子 千枝 如粹 美雪 華宝 綠珠 久敬 美憂 桐花 光麗 優子 朝煙 美加 利佳 清明 夏鈴 美景 英惠 曉湖 雅里 厚志 清峯 星惠 鶴嬰 節子 容瑋 有桜 惠翠 香葉 美翔 陽泉 早紀
 渡邊 吉原 山田 山田 森川 室賀 村上 溝口 松岡 増田 廣川 林部 服部 畑中 野田 成田 中村 長瀬 豊田 寺島 鶴見 土森 玉置 種子 田中 田中 多田 瀧井 蘭井 杉山 芝田 佐分 佐々木 榑原 小西 小本 河野 桑山 久住 金原 北村 神崎 川合 神谷 惠舟
 静扇 桃紅 春華 一璃 芳月 紫江 桜季 千咲 蒼岳 律翠 紫翠 泉山 霞月 恵翠 輝雪 霞汀 明子 常風 壽美 瑞子 凌山 秋映 汀優 峻瑛 芳茜 暢光



一科 (第一部) 当番審査員

推 第二部 伊藤ひとみ 宇野 央子	渡邊 香扇	山口 典子	山内 清華	三井 恵子	舟橋 風苑	藤原 紫光	福山 仁雅	日置 康苑	林 節香	濱野 瑞帆	野中 菁華	中野 和陽	中島 彩空	遠山 正幸	杉本 紫芳	社本 錦楊	柴田 真依	穴戸 智紅	作内 春月	榊原 星江	小塚 俊碩	木村 麻菜	木全 秋波	神田 春乃	河合 真珠	片桐 晃城	奥山 清風	太田 八重子	鷗飼 素月	上原 水影	稻垣 清江	石川 芳辰	石川 玲香	伊佐治 星月	安福 展翠	浅井 麗香	秋田 清芳	青木 來夢												
	山田 隆久	山家 繪美	三輪 翠陵	水谷 紫穂	舟橋 聖梨沙	藤本 佳扇	平田 美津子	林 里奈	林 花恋	畑 昂佳	中村 蕙風	中出 紅光	富田 雅穂	棚橋 雅穂	祖父江 幽華	庄野 照香	澁谷 弘峯	篠崎 芳園	佐々木 映雪	榊原 美峰	後藤 智明	楠森 玄峰	木村 秀華	神戸 笙詩	川村 有紀奈	神谷 美艸	垣本 松風	荻野 玉堂	梅村 香園	上本 松翠	岩場 恵子	伊藤 主華	石川 彩香	石井 蕉雪	生田 大雅	在藤 花昌	浅井 孝行	青野 翠煙												
推 第三部 (近代詩文)	野田 芳樹	大田 さやか	今枝 瀧華	今橋 久子	今橋 久子	鶴口 夏菜	古田 ひなせ	水越 泉聲	深谷 紀代子	鈴木 由木江	後藤 珠美	浅野 螢雪	水谷 孝邨	島山 美智子	西川 允子	鈴木 和子	小林 明美	鏡味 洋子	江川 節子	稲村 洋春	阿部 ひろみ	森 真由美	三浦 節子	細野 真由莉	平林 津賀子	豊田 恵子	小牟禮 優美	大山 直美	池田 宮子	準特選	幅 早苗	角田 登美子	佐藤 すみ子	上村 寿子	特選															
	横井 琴泉	森 曉雲	水野 玉照	坪山 香泉	高倉 佳風	久保田 香穂	小川 恵秀	今橋 久子	横井 琴泉	吉川 抱雲	湯之上 桃琶	村尾 亜子	水谷 静香	松原 瑞穂	福應 一蒼	坂 みゆき	永井 鳴琴	高木 夏蓮	後藤 夢芽	後藤 煌雪	川口 芳雲	加藤 登紀子	糟谷 永子	小田 美祥	尾関 あずさ	岡野 芳樹	伊藤 有澄	石井 優琳	浅井 麗	吉原 ゆう子	山田 清漣	三輪 天音	宮島 愛佳	松井 雲海	古田 輝美	平田 栖冬	野村 貞美	寺嶋 祥香	但馬 日菜子	鈴木 木ふゆ香	清水 雪華	柴田 祥仙	齋藤 大貴	近藤 芳玉	國武 寶珠	金澤 春陽	緒川 莉子	緒川 嘉雅	石黒 麗月	浅井 柚衣
推 第四部 (少字数)	榎並 勝彦	佐藤 敬介	村田 恵紅	皆川 光	鈴木 夏代	中橋 美恵子	山本 康二	日高 節代	橋倉 詠雪	一柳 純子	松崎 理恵子	小坂 仁子	垣内 紀子	板倉 虹華	准特選	中島 玲子	川部 啓子	天野 博子	天野 博子	若杉 尚哉	廣瀬 芳雲	服部 麗泉	長尾 有紗	田中 寿風	高田 有紗	白崎 紫泉	作田 香泉	川原 香泉	加藤 蒼琅	梶里 順子	今枝 順子	飯塚 花香	安藤 秀苑	入選																
	寺本 九齋	長谷川 鳳声	柴川 高広	寶満 祥子	中谷 釣月	山本 種子	藤垣 広子	日高 橋扇	加藤 由美子	水谷 劍堂	平井 祐里	沓名 典子	小倉 聖代	永江 佳子	三嶋 寿扇	日比野 弘心	長谷川 素雪	寺尾 敏夫	菅原 佳月	佐藤 華風	小林 華風	川島 豊翠	片山 葉那	大川 光瞳	石田 昭亭	安藤 昭亭																								



一科 (第二・四・五部) 当番審査員

<p>二科 第一部 (漢字)</p>															<p>入選</p>														
<p>奨励賞 阿部 明華 浅野 ひなた 朝居 華緒 渡辺 珠希 村瀬 鶴翠 宮永 紅雅 松平 瑤子 原 咲良 林 かをり 長谷川 叶美 蛭川 晴秋 中西 真尋 寺澤 藍葉 中條 仁美 谷澤 梓 高橋 美華 鷺見 桃華 城越 千鶴 近藤 翠香 小塚 美代子 加藤 明美 太田 礼美 岩根 桂月 池田 真夕</p>															<p>秀逸 山内 昂波 溝口 泰司 西岡 貴美子 永坂 暁美</p>														
<p>安藤 雄岳 足立 大和 浅井 紅泉 渡辺 春燕 宮原 伶歌 三笥 玖巳 藤田 夏実 半谷 璃音 林 葵 濱中 紗花 野々垣 溪月 中村 草風 戸谷 とも子 角田 七香 田渕 光華 田中 香織 高橋 映美 菅溪 結衣 坂口 伶奈 小林 博子 杏名 美子 大野 由美子 伊藤 山田 小岩 竹湖</p>															<p>古田 富美子 永田 乾石 高木 啓志 山本 博信 牧野 常典 白井 ゆか 子安 一徳 鶴飼 要 湯浅 茅咲 本村 葦雀 松野 悦子 中野 麦愛</p>														
<p>鈴木 佳代 杉山 瑠華 白木 友梨 清水 紅花 島津 瑤春 柴田 瑞留 澤村 朱珠 佐藤 幽水 佐々木 めぐみ 櫻井 彩光 坂中 志帆 齋藤 遥 近藤 美伶 児山 浩子 小林 秋月 後藤 謙心 黒田 実花 杳脱 祥子 木根 朋哉 鬼頭 世来 木谷 珠緒 岸 千晶 河田 知之 川井 祥光 蟹江 香風 加藤 愛菜 加藤 早苗 加藤 恵美 小野 知美 岡田 由香 大林 靖奈 大畑 華雪 大竹 瑞光 大島 千可子 大久保 寧音 江口 美優 井上 玄城 犬飼 優羽 稲熊 豊穂 伊藤 拓海 伊東 光翠 泉 彩音 石川 秀山 飯田 結衣</p>															<p>鈴木 那 鈴木 朱音 杉山 紅穂 杉浦 克哉 下村 智子 嶋村 小楓 洪谷 香真 地主 侑真 澤里 さよ子 佐藤 茜雲 櫻井 慎子 坂本 知優 阪井 青穹 近藤 悠生 近藤 碧霄 小山 紗知 後藤 美川 額 朱莉 久保 泰仙 日下 晴陽 鬼頭 もえ 北堀 華映 北川 紗也佳 神林 雅代 川口 璃峰 兼村 紗也加 加藤 祐弥 加藤 咲雪 加藤 深雪 梶谷 まち子 小野 里楓 大矢 史枝 大畑 豊泉 大橋 美泉 太田 芳春 大栗 秀霞 榎倉 美舟 今枝 祐奈 犬塚 琉理 稲葉 碧陽 伊藤 麗水 伊東 彩楓 伊東 華水 石原 桐華 池上 玲月</p>														
<p>水野 乃愛 水野 春雪 水野 朋花 間宮 映川 松宮 翠玉 松原 ひなた 松田 清翔 松任 真代 前田 研城 堀部 香雨 堀内 梓未 寶正 咲希 藤井 理子 福井 優夏 平野 香苗 姫野 裕子 原 尚美 林 慧翠 早川 智津子 濱中 勇之介 服部 ころ 長谷川 琴未 橋本 佳代子 萩野 裕美子 野々垣 祥風 西尾 春瑠 中村 綾花 中村 彩乃 中野 紫泉 中野 節子 中島 朱音 中島 佳風 中井 翔園 徳倉 有鄰 寺野 静華 津滝 麻衣 辻 聖漣 辻 悠香 田羅原 星麗 谷本 遥菜 谷口 華暖 田中 美琉 田中 大翔 田中 清晏 武井 こむぎ 高橋 薫麗 高田 幸枝 園部 恭子</p>															<p>水野 帆乃香 水野 孝代 水野 昂峰 三浦 湊月 松本 有希 松原 紀柳 松任 花音 加藤 清峰 加藤 美奈 片山 遥月 小野 秀翠 岡本 光華 岡田 優那 大仲 慶那 大島 悠莉 大倉 悠沙 宇都宮 有沙 宇佐美 早苗 今枝 万優子 今井 陽子 伊藤 大貴 伊藤 心花 伊藤 香花 安藤 遥 渡辺 夕月 渡辺 紋菜 吉松 翠景 横山 りか 山本 瑠幸 山本 章貴 山田 七愛 山下 祐生 山崎 咲香 山内 結季 八木 光華 森島 翠香 森 佑菜 村山 紅輝 宮永 桂風 宮川 梨花 源川 温都</p>														
<p>清原 乙華 木本 沙季 菊谷 友香 神谷 紅峯 壁谷 清蘭 加藤 真由美 加藤 教子 加藤 徳真 加藤 徳崖 加藤 暁山 奥谷 毘毘 岡田 彩虹 大橋 樹里 太田 栖空 大鹿 祥玉 江川 琥太郎 宇佐見 真吾 岩瀬 ひかり 今枝 敦美 稲田 夏生 伊藤 瀬奈 伊藤 杏樹 池田 乃々葉</p>															<p>渡辺 紋未 吉峯 理櫻 吉田 白玲 山本 麗水 山中 豊翠 山田 菜々 山城 璃来 山崎 友理 山口 真央 矢田 康代 守山 遷翠 森 淑子 室谷 美樹 村上 綺 三宅 春慶 美濃部 純 三井 蓮孝</p>														



一科 (第三部) 当番審査員

濱野 兼伍 花木 始雲 長谷川 舞 長谷川 ぼる 橋部 天音 則竹 未來 野澤 英里 西田 志帆 新實美 津子 中村 有作 中野貴美 恵 仲田 沙絵 中浦 亨 寺田 智咲 土田 流麗 塚越 啓陽 田中 清蘭 竹田 翔哉 竹田 愛衣 高見 紀子 高橋 渚花 高石 実央 驚見愛也 華 鈴木 芳華 鈴木 颯葉 鈴木 凱登 杉山 佳麗 杉浦 繪香 新貝 愛心 清水くるみ 塩野谷日向 櫻井 菜央 佐口 華翠 阪上 珠基 佐伯つた子 齋藤 彩月 近藤 映翠 近藤 彩禮 駒田 秀果 小林奈里美 後藤 千紗 小島 芙邕 黒野 満枝 國立 照雲 久保ひかり

林 馬場 畑 長谷川 長谷川 萩野 野村 西村 新美 夏目 中野 中西 中川 豊島 鶴田 栢植 多門 竹田 竹田 高柳 高松 高橋 瀬戸 鈴木 鈴木 鈴木 鈴木 鈴木 杉原 杉浦 清水 柴田 佐藤 櫻井 坂下 酒井 齊場 近藤 近藤 小松 小林 後藤 小島 小島 飯谷 林

明奈 朋花 朋星 文音 真帆 蒼風 洋子 春園 幹子 佳美 香舟 思葵 帆夏 里夏 藍菜 藍玉 柚花 彩花 祥雲 雪香 桃風 茂子 依菜 叶夢 真弥 貴大 翠陽 耕雲 和子 美子 紗衣 由美 友香 久保ひかり

入選

五瀬 小出 桑原 川島 金子 加藤 加藤 奥田 大八木 大谷 浦田 岩本 岩田 今井 伊藤 伊藤 板倉 石川 青木 渡邊 渡邊 吉原 山本 山中 山口 山口 築瀬 安江 森 村中 村瀨 三井 水谷 松山 松尾 松井 松井 前田 堀 二村 藤田 藤田 飛田 飯谷 林

勝樹 百合 由衣 愛菜 紫和 美琴 希美 乃愛 祥雨 航 紫光 玲水 桃凜 咲良 章子 希風 青雲 湖夕 清華 明侑 沙耶 照景 翔大 幸子 望樹 寿光 理香 静岑 和子 玲翠 美依 穂花 友香 朋子

小林 河辺 桑原 蒲野 加藤 加藤 小栗 小川 大野 大草 内田 岩室 伊藤 伊藤 石川 池田 渡部 米山 横山 山本 山田 山崎 山崎 山崎 山崎 安永 諸永 室伏 村瀨 村井 溝口 円山 松崎 松井 松井 増田 堀井 堀井 古澤 藤本 藤井 廣阪 肥後 林

亮俊 沙羅 蓮咲 実玖 綾扇 遊紫 晶子 淳弘 蓮華 紗英 結愛 実来 利歩 峻亮 敏安 有咲 由衣 誉子 心華 藍里 愛依 真稀 秀華 有響 澄代 夕香 桜 奈奈 瑞桃 紗世 花央 奈那 桃花 梨里 美優 彩那 萌春 佳子 友明 清流 朋夏 佑香

第二部 (かな)

奨励賞 浅井 雅子 川中 永津子 太田 加代 氏原 富貴子 内田 洋子 神谷 昌代 萬代 京 飯田 真帆

若松 朋希 吉田 則夫 吉田 恵美子 萬木 桃風 山田 幽寂 山崎 遙華 諸戸 有彩 村木 勇介 宮崎 礼堂 水崎 夏実 見市 樹 松波 玉苑 堀田 恵佑 逸見 隆晃 藤目 杉江 廣川 沙実 原田 浩伸 早川 真理子 服部 桂 長谷川 美里 野中 美里 中西 五十鈴 中島 直苑 都筑 伸堂 鎮谷 倫子 柘植 美扇 棚橋 秋麗 高見 眞生 松井 紫峰 鈴木 志優 鈴木 結那 新屋 樹子 佐藤 眞樹子 佐藤 宏志郎 齊場 宏志郎 小松 永愛 小林 果楓

吉田 美枝 横谷 陶染 横谷 令子 山田 望星 山田 永淳 矢原 知夏 森山 さくら 村岡 紫紀 光岡 静川 水鳥 彩樹 松本 莉亜 前川 友莉 細井 芭葉 古澤 竜二 廣川 蒼桃 庄村 清泉 是枝 信也 倉島 尚味 奥田 桂子 市川 由美 足立 葉子 吉澤 希々 森平 りえ 村瀨 とし子 古橋 葉子 藤井 亮 林 夏子 長坂 みよ子 永井 ひろみ 寺島 恵利 高橋 翠葉 近藤 弘美 加藤 まゆみ 打田 りり子 岩内 すみれ 市川 裕子

伊藤 磨知子 位田 弥生 梅山 瑞加 近藤 尚子 佐野 ひろみ 高橋 裕子 富田 恵子 永井 澄香 長縄 澄香 原田 美子 藤田 智子 宮田 昭子 森 登美子 山口 和子 度會 麻子 安藤 泰民 太田 晶基 金子 光子 木引 章子 島村 寛子 杉本 篤 鈴木 智子 土田 明穂 中嶋 紀代 松田 幸理 三輪 晴美 山下 美穂 渡辺 美穂 伊藤 節子 岡田 つみ 近藤 向華 早崎 桂子 坂 麻由香 福島 恵香 水野 孝映

第三部 (近代詩文)

篠田 青侑 川口 菜々子 岩間 康子 伊藤 園子 小川 百合子 河瀬 歩乃果 中村 有沙

森 美泉 古田 芽生 平田 賢子 林 鶴声 永谷 美鈴 加藤 シズエ 太田 裕子 阿部 真由子 伊藤 節子 岡田 つみ 近藤 向華 早崎 桂子 坂 麻由香 福島 恵香 水野 孝映

伊藤 磨知子 位田 弥生 梅山 瑞加 近藤 尚子 佐野 ひろみ 高橋 裕子 富田 恵子 永井 澄香 長縄 澄香 原田 美子 藤田 智子 宮田 昭子 森 登美子 山口 和子 度會 麻子 安藤 泰民 太田 晶基 金子 光子 木引 章子 島村 寛子 杉本 篤 鈴木 智子 土田 明穂 中嶋 紀代 松田 幸理 三輪 晴美 山下 美穂 渡辺 美穂 伊藤 節子 岡田 つみ 近藤 向華 早崎 桂子 坂 麻由香 福島 恵香 水野 孝映



二科 (第一部) 当番審査員

- 奨励賞**
 中村朋恵、堀菜々美、村上慶太、山田文華、横井馨子、青木優七、浅井たみ子、天野久仁子、池田剛、石川混平、石原遙佳、伊藤尚子、梅田栄香、大島百合子、岡本蒼生、小野心丸知、笠井帆乃香、河口航毅、河本眞翔、木藤維香、熊谷京香、小池二美、五藤しのぶ、小東エミリ、小山智晴、榊原理子、佐藤那南、篠崎綾香、笹田倫世、末岡伸一、椛村百折、菅生まゆみ、鈴木澄恵、高野優斗、坪井友美、田中佳子、中島花菜、中村杏夏、西脇花菜、野田美奈、芳賀桃実、濱砂恵慧
- 賞**
 濱口和真、宮下ゆい、村上春風、百合草瑞舟、若菜初音、青山いのり、浅井陽子、荒武優衣香、池戸七和、石濱ちづる、伊藤恵理子、稲垣三千代、遠藤瑞希、大霜恵美、荻野仙雅、小野紗京、加藤由華、河原津貴子、河原津由華、鬼頭桃弦、木村歌暖、栗本陽水、小出真央、小林瑞苑、小室桃柯、阪井七海、佐々木京子、佐藤舞花、島澤美羽、庄田結菜、杉田春翠、杉山みち子、鈴木秀佳、瀬田夏鈴、高橋宏毅、田中愛結美、土屋友理香、寺尾裕恵、内藤悠衣、永野桃子、成田長男、野田涼太、能登裕子、花田圭、春野瑞希
- 佳作**
 東山このか、樋口春美、平田太陽、藤田利津子、前田敏子、松原房子、三島桜、水野琴葉、三吉昭江、守屋青霞、柳澤心那、山口真生、山下洋子、吉井衣美、渡邊明子、浅井優果、新井善子、伊神沙季、磯村日出蔵、磯村朋郎、岩瀬朋郎、江口季花、大久さくら、大森康耀、奥村佳美、上村康之、川畑真萌、木全世子、後藤麻子、近藤結羽、近藤勝子、近藤良夫、近藤いづみ、近藤裕子、近藤瑞季、斎藤香子、佐藤香代子、清水麻世、杉本百々香、鈴木翠流、鈴木恵美子、鈴木美智子、鈴木恵子、関口龍一、高田知佳、高田爽太、谷口知佳、津崎百香、長江紅霞、西澤茉桜、服部真侑
- 入選**
 早崎理沙、須寿、廣浦晏珠、藤川晏子、堀田せつ子、堀内直子、二村直子、福田咲美、平本笙起、浜松明日香、石川三佳、伊藤柚希、犬飼美知子、伊藤玲奈、市川香澄、明石葵、渡邊桜生、吉川凜佳、結城凛生、山崎彩音、山根有美子、山崎洋子、保田七海、森田美空、水野裕子、水野恵香、水野莉子、丸山紋奈、松野莉子、松原浩子、堀内直子、堀田せつ子、二村直子、福田咲美、平本笙起、浜松明日香
- 奨励賞**
 岩田美恵、藤原恭子、峯舞凜、山崎晴美、岩瀬瑞葵、岩瀬晴美、橋口晴美、花井明日美、成田あかり、長谷川優子、林淳子、磯貝はるみ、中村亜美、森咲美咲、寺澤美咲、森咲美咲
- 二科賞**
 中北又幻、鈴木玉晶、八柳蕙風、阿部和枝、石川祥紅、江崎桂、加藤日出男、近藤綵春、近藤綵春、水谷晴巳、山中一斗、若林弘樹、伊藤美沙樹、榎本乃音、岡田義明、桂川芳子、相山梅香、戸田恵春、宮島信子、東川昌信、伊藤直美、坂田紗高、原倫清、有馬奈代子、梅原泰世、成瀬敏清、牧野顕雄
- 二科賞**
 山盛湖子、和田香奈子、芳村有里加、山田武文、森岡節子、水野泰剛、三上隆一、松田隆一、深谷倅汰、坂野順子、成瀬悠泉、中葉ひより、辻本光司、田代昌司、高月優美、島崎愛石、齊藤祐樹、小西香織、北村玲風、金本吉彬、岡村珠季、大崎珠季、梅田帆乃香、井本千陽、稲熊玲奈、伊藤まどか、市川香澄、明石葵、渡邊桜生、脇田紅水、脇田照子、横井小桃、山崎季里、宮崎紫香、三浦梨菜、松原浩子、堀内直子、堀田せつ子、二村直子、福田咲美、平本笙起、浜松明日香
- 二科賞**
 井上石路、大嶽由美、押田白蓬、下坂静華、築山祥碧、平野桜大、三輪セリ光、有馬奈代子、梅原泰世、成瀬敏清、牧野顕雄



二科（第二～五部）当番審査員

第七十二回 中日書道展を終えて

第一事業部長 後藤 啓太

第七十二回中日書道展は、令和五年六月十三日(火)より七月十六日(日)まで一ヶ月を越えるという長い会期、また愛知芸術文化センター愛知県美術館ギャラリー八階全室・名古屋市民ギャラリー栄七・八階全室・電気文化会館五階東西ギャラリーにて開催しました。何よりも約一ヶ月の長い会期への十回、三会場での陳列撤去を繰り返し行いました。多くの協賛会員、また本会会員の皆様のご協力に厚く感謝を申し上げます。

ならびに受賞作品を丁寧にご覧いただきましたこと感謝申し上げます。

《二科審査・一科審査・特別賞選考》

名古屋伏見の電気文化会館五階全フロアを使い、本年はコロナ禍以前の人数で審査を行うことが出来ました。厳正かつ公平な審査でありましたことを、ご報告申し上げます。

《展示会場》

展示会は三会場共、担当部長の先生の的確な指示のもと、協賛会員の皆様、会員の

会期中には、名譽顧問の大村秀章愛知県知事におかれましては、ご多用の中、愛知県美術館ギャラリーにお越し下さり、役員

展覧会は三会場共、担当部長の先生の的確な指示のもと、協賛会員の皆様、会員の

ご協力に厚く感謝を申し上げます。

来年は中日書道会創立九〇周年、中日書道展は七十三回展を迎え、愛知県美術館ギャラリー八階において企画展として日本全国の書家の先生が書き残された古典臨書作品の展示を計画しています。また、ご来場の皆様に興味を持って楽しんでいただくイベントも考えています。

中日書道展の成功は、会員の皆様、協賛会員の皆様のご協力なくしてはありえません。より高いレベルの素晴らしい展覧会『中日展』が開催できますよう、一層のご支援、ご協力をいただけますよう、宜しくお願ひ申し上げます。

先生方のご協力により、整然と美しい展示ができましたこと御礼を申し上げます。どの会場もたくさんの書道ファンにお越しいただき大盛況でした。

《第七十二回中日書道展 反省会》

本年は、理事および副部長、主任の先生方から、反省点・ご意見・ご要望をいただき、次回、よりスムーズな展覧会ができるよう取りまとめをし、書類にての反省会となりました。

来年は本年とは違う会期・会場での展示となる予定です。愛知県美術館ギャラリー八階全室の二週間の使用と、市民ギャラリー七階と八階の全室を一週間使用し、二会場での展示を予定しています。

来年は本年とは違う会期・会場での展示となる予定です。愛知県美術館ギャラリー八階全室の二週間の使用と、市民ギャラリー七階と八階の全室を一週間使用し、二会場での展示を予定しています。



大村秀章愛知県知事来訪



愛知県美術館受付



陳列打合せ



市民ギャラリー会場風景

先生方のご協力により、整然と美しい展示ができましたこと御礼を申し上げます。どの会場もたくさんの書道ファンにお越しいただき大盛況でした。

《第七十二回中日書道展 反省会》

本年は、理事および副部長、主任の先生方から、反省点・ご意見・ご要望をいただき、次回、よりスムーズな展覧会ができるよう取りまとめをし、書類にての反省会となりました。

来年は本年とは違う会期・会場での展示となる予定です。愛知県美術館ギャラリー八階全室の二週間の使用と、市民ギャラリー七階と八階の全室を一週間使用し、二会場での展示を予定しています。

来年は中日書道会創立九〇周年、中日書道展は七十三回展を迎え、愛知県美術館ギャラリー八階において企画展として日本全国の書家の先生が書き残された古典臨書作品の展示を計画しています。また、ご来場の皆様に興味を持って楽しんでいただくイベントも考えています。

中日書道展の成功は、会員の皆様、協賛会員の皆様のご協力なくしてはありえません。より高いレベルの素晴らしい展覧会『中日展』が開催できますよう、一層のご支援、ご協力をいただけますよう、宜しくお願ひ申し上げます。

令和5・6年度 公益社団法人 中部日本書道会

新事務局

事務局長 横井宏軒

企画委員長 大池青岑

部	部長	次長
1. 総務部	天野白雲	浅井明奈・原 霞扇
2. 庶務部	村瀬俊彦	天野梢華・村瀬季舟
3. 第一企画部兼 IT 部	佐野翠峰	高桑巖風・鳥居柳城
4. 第二企画部兼 IT 部	上小倉積山	庄田華鳳・新美秋鳳
5. 第一経理部	磯谷凄聴	岩田緑汀・武田晶庭・原賀瑞芳
6. 第二経理部	神谷光園	泉 好子・田口勢望
7. 会員部	内田翠径	伊藤紅樹・五井花径・広井秀琳
8. 第一事業部	後藤啓太	伊高美秀・伊藤昌郷・伊藤龍仙・奥村三葉・川本大幽・ 豊永御風・丸山聖峰・溝口子静
9. 第二事業部	馬場紀行	石黒直子・加藤秀慧・川合玄鳳・若杉美香
10. 研究部	廣澤凌舟	内山蘭月・中川星光・三代雄峯
11. 第一教育部	武内峰敏	伊藤杏峯・亀井小琴・國島英華・小坂克子・式守白萩・ 清水春蘭・谷口琇苑・野田虹園・松下聖心・村田籬香
12. 第二教育部	川崎尚麗	松崎青漣・鷺野紫皇
13. 褒賞部	水野峯翠	相川千涯・関根玉翠・竹内清泉・塚田俊可・原田圭竹・ 堀部保子・吉澤有岐子
14. 渉外宣伝部	田中修文	榎本翠峰・平 富耀・吉原愛璃
15. 記録統計部	山中桂山	梶山盛涛・衣川彰人・高橋栖雲・松佐古溪水
16. 編集部	林 柏堂	浅井紅鶴・江川翠苑・築山みなみ・中井港星
17. 厚生部	伊藤昌園	伊藤静雅・永谷恵子・長屋天虹・藤村真徳
支 部	支部長	支部次長
1. 一 宮	村上史麗	牧 仙岳・村田光柊・吉田桃花
2. 半 田	杉江花城	江川翠苑・北川爽風
3. 西三河	加藤矢舟	磯谷凄聴・築山みなみ・山岸邦山
4. 東三河	山川孝子	皆川嗣恵・深井尚子
5. 濃 飛	堀 梅肇	中垣幸聲・虎井姚花
6. 北 勢	荒木友梅	高橋華堂・竹内清泉・中条彰山
7. 中南勢	谷 鴻風	小掠雄大・堀田 花
8. 岐 阜	今田紅溪	伊藤小游・鈴木蘭峰・早川 修

※紙面の都合で委員の方については掲載出来ませんでしたので、10月発送の会員名簿をご覧ください。

協賛会員一覧

浅井梧竹堂	452-0823 名古屋市西区あし原町68-1	052-504-2703	金陽堂表具店	471-0076 豊田市久保町3-27-1	0565-32-0863
(株)荒川印刷	460-0012 名古屋市中区千代田2-16-38	052-262-1006	(株)呉竹	630-8670 奈良県奈良市南京終町7-576	0742-50-2050
石黒五雲堂	453-0834 名古屋市中村区豊国通4-46	052-412-7862	(有)高誠堂	440-0804 豊橋市呉服町44	0532-52-5514
(株)一休園	731-4221 広島県安芸郡熊野町出来庭2-2-44	082-854-0019	光文堂(株)	461-0005 名古屋市東区東桜1-3-28	052-961-6866
伊藤大林堂	465-0004 名古屋市名東区香南1-507 長谷川コーポ1F	052-776-1881	小松表具店	485-0831 小牧市東2-544	0568-75-0281
印刷屋九二八(株)	497-0011 あま市七宝町安松13-9-1	052-443-1190	書遊 川口春霞堂	497-0012 あま市七宝町下田四反割2	052-444-8024
ウサミ印刷(株)	451-0066 名古屋市西区児玉1-10-7	052-522-2361	書遊 平野筆墨堂	497-0012 あま市七宝町下田四反割2	052-433-3033
永楽堂	445-0854 西尾市永楽町4-10	0563-54-2053	(有)真清社	460-0007 名古屋市中区新栄1-47-5	052-241-8085
(株)應天堂	501-1172 岐阜市下鵜飼1468	058-239-5200	(株)青柳堂	460-0008 名古屋市中区栄4-1-8 中区役所ビル1F	052-259-0313
オフィスイズ	511-0243 三重県員弁郡東員町穴太1248-3	0594-76-3976	(株)大玄堂	500-8289 岐阜市須賀1-8-25	058-271-2662
魁盛堂(株)	451-0063 名古屋市西区押切2-2-13	052-521-3211	大同印刷(株)	501-6241 羽島市竹鼻町3214	058-392-2345
開明株式会社	336-0931 さいたま市緑区原山2-22-20	048-882-1091	中電不動産(株)	460-0008 名古屋市中区栄2-2-5 電気文化会館	052-204-1383
加藤長寿堂	453-0809 名古屋市中村区上米野町4-24 吉田ビル1F 1B号室	052-452-4751	(株)長楽斎筆舗	460-0007 名古屋市中区新栄3-18-24	052-263-4554
(有)伽藍	460-0011 名古屋市中区大須3-8-10	052-242-7741	名古屋キョー和	460-0008 名古屋市中区栄4-2-10 小浅ビル2F	052-263-9401
(有)菊屋商店	460-0007 名古屋市中区新栄2-1-46	052-241-1145	㈱名古屋ホウコドウ	486-0836 春日井市八事町1-190-3	0568-89-7788
(有)吸月堂	462-0844 名古屋市北区清水2-2-2	052-931-6948	西川堂森表具店	491-0883 一宮市下田2-4-25	0586-72-3629
(有)共栄エージェンシー	468-0069 名古屋市天白区表山3-2418	052-835-6647	(株)美創堂	486-0831 春日井市ことぶき町8-1	0568-81-9236
(株)玉蘭堂	150-0002 東京都渋谷区渋谷1-24-4 渋谷百瀬ビル5F	03-3499-4886	(株)墨運堂	630-8043 奈良市六条1-5-35	0742-52-0310
(株)金工堂	460-0003 名古屋市中区錦3-16-22	052-961-0151	松屋紙店	475-0866 半田市清水北町63	0569-21-2572

令和五年度

第一回 理事会 第二回 理事会 総 会 第三回 理事会

四月 九 日(日)
五月二十八日(日)
六月二十五日(日)
六月二十五日(日)

安 保 ホ ー ル
名古屋東急ホテル
名古屋観光ホテル
名古屋観光ホテル

令和五年度 第一回理事会

令和五年度第一回理事会在四月九日四時三十分から「安保ホール」にて開催されました。

理事二十九名の出席で、伊藤仙游理事長の挨拶に始まり、以下に示しました議案について終始熱心にかつ慎重に審議され、すべて承認されました。



- 第一号議案 新役員選考委員選出に関する件
- 第二号議案 理事・監事定員増に関する件
- 第三号議案 令和五年度総会の日時及び場所並びに目的である事項の承認に関する件

令和五年度 第二回理事会

令和五年度第二回理事会在五月二十八日午後四時から「名古屋東急ホテル」にて開催されました。理事二十九名の出席で、伊藤仙游理事長の挨拶で始まり、以下に示しました議案について慎重かつ熱心に審議され全て承認されました。



- 第一号議案 公益目的保有財産定期預金の取り崩しに関する件
- 第二号議案 (1)令和四年度事業報告書の承認に関する件
- (2)令和四年度収支決算書の承認に関する件
- (3)財産目録の承認に関する件 (監査報告)
- 第三号議案 理事・監事の選任に関する件

令和五年度 総 会

令和五年度公益社団法人中部日本書道会総会は、「名古屋観光ホテル」にて六月二十五日午後一時三十分から開会に先立ちご逝去されました二十六名の先方に哀悼の意を表して黙祷をささげました。総会は、伊藤理事長の挨拶に始まり、以下の議案について終始熱心かつ慎重に審議され全て承認されました。



- 第一号議案 令和四年度事業報告書の承認に関する件
- 第二号議案 令和四年度収支決算書の承認に関する件
- 第三号議案 (1)財産目録の承認に関する件
- (2)監査報告
- 第四号議案 理事・監事の定員増に関する件
- 第五号議案 理事・監事の選任に関する件

令和五年度 第二回理事会

令和五年度第三回理事会在六月二十五日総会終了後、新たに選任された理事三十三名で「名古屋観光ホテル」にて開催されました。議案にそって慎重に審議され全ての議案が決定しました。



- 第一号議案 理事長・副理事長の選定に関する件
- 理事 伊藤 仙游
- 副理事 岡野 楠亭
- 加藤 裕
- 松下 英風
- 横井 宏軒
- 第二号議案 退任理事の役職人事について
- 顧問 工藤 俊朴
- 山際 雲峰
- 第三号議案 事務局編成について
- 本部事務局及び支部長

令和5年度 第27回 書の魅力 公開講座 (予告)

日時: 令和5年11月12日(日) ※書の匠・壽書展最終日 会場: 電気文化会館 イベントホール(5階)

日程: 受付 12:30~12:50

開会あいさつ 13:00 (理事長)

第1講座 13:15~14:15

講師: 理事 磯谷 凌聴 先生

演題: 臨書を楽しむ

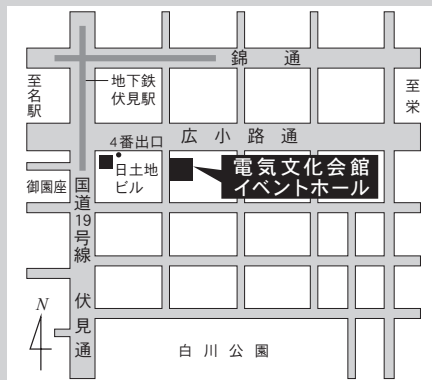
休憩

第2講座 14:35~15:35

講師: 顧問 丹羽 常見 先生

演題: 印泥の扱いと押印について

閉会のことば 15:35 (研究部)



令和5年度 第4回 書の匠展・第32回 壽書展 (予告)

会期: 令和5年11月7日(火)~11月12日(日)

会場: 電気文化会館 東・西ギャラリー

書の匠展

出品対象者

名誉会長・名誉会長代行・名誉副会長・常任顧問・顧問・理事長・副理事長・理事・監事及び令和5年4月1日現在に於いて満70歳以上の参与・評議員の各先生。

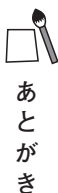
壽書展

出品対象者

令和5年4月1日現在に於いて満70歳以上の正会員・準会員・会員外の各先生

新入会員 紹介

- 半田支部 明壁 直暉
- 石見 蒼翠
- 伊藤 有澄
- 加藤 陽翠
- 中野 瑛翠
- 林 萌苑
- 前田 泉翠
- 山口 扇翠
- 阿部 有希
- 東三河支部 阿部 有希
- 戸谷 草風
- 吉澤 希々
- 濃飛支部 荒屋 高楓
- 岐阜支部 久保山碧楓



あとがき

・中日会報二〇九号をお届けいたします。

・本号では、名誉会長代行樽本樹邨先生の旭日小授章ご受章祝賀会、第七十二回中日書道展祝賀懇談会での伊藤仙游理事長の岐阜県芸術文化顕彰、近藤浩平常任顧問の愛知県芸術文化選奨ご受賞、そして中日書道展での入賞・入選のお祝とお慶びが盛沢山のご報告となりました。また、役員改選による新理事長・副理事長はじめ役員・企画委員の新人事のご紹介も掲載させて頂いております。

・本会事業計画もコロナの規制解除に伴い、徐々に戻りつつあります。編集部では、引き続き会員皆様へのご案内・ご報告を的確にお届け出来ますよう努力してまいります。

・会員皆様には、お身体ご自愛下さいませ。

(編集部)

社中展・個展のご案内

- 第五十七回 麗筆会展
代表 麗筆会会長 森 隆城
会期 九月二十二日(金)~二十四日(日)
会場 一宮市スポーツ文化センター二階
- 第三十七回 書法研究 吉祥展
会長 岡本桃香
会期 九月二十九日(金)~十月一日(日)
会場 安城市民ギャラリー二階 A・B展示室
- 瀟墨會書作展
特別出品 稲垣松園
会期 十月十七日(火)~二十二日(日)
会場 名古屋市民ギャラリー栄七階 第一展示室
- 第五回 桃香會書展
主宰 岡本桃香
会期 十月二十四日(火)~二十九日(日)
会場 名古屋市民ギャラリー栄七階 四室
- 第二十三回 清農會書展 併催 学生選抜展
代表 吉田清城
会期 十一月七日(火)~十二日(日)
会場 名古屋市民ギャラリー栄八階 第七・八展示室

※本会会員による書展のご案内を、会報及びHPにて掲載させていただきます。

会報掲載には展覧会案内原稿、HP掲載には展覧会案内ハガキをお送り下さい。尚、展覧会原稿及びハガキは、必ず封書にてお送り下さい。次号掲載は、十一月下旬~二月中旬開催の展覧会となります。

お申し込みは、九月末日までに本部までお願いします。 編集部

ホームページアドレス <http://www.cn-sho.or.jp>

メールアドレス info@cn-sho.or.jp

計報

心より哀悼の意を表し、報告申し上げます。

- 4月1日 正会員 川松 杷泉氏 享年75
- 4月3日 評議員 井口 方藏氏 享年73
- 4月4日 評議員 倉内 秀佳氏 享年84
ご主人 倉内 勇様
- 4月13日 評議員 志村 松琴氏 享年96
ご岳母 志村 ひろ子様
- 4月14日 常任顧問 平松 紫雲氏 享年88
- 4月15日 正会員 矢吹 喜泉氏 享年77
- 4月15日 顧問 中島 龍溪氏 享年88
- 4月25日 評議員 井上 春嶺氏 享年72
- 4月26日 正会員 渡辺 紫江氏 享年84
- 5月21日 評議員 近藤 芳玉氏 享年104
ご尊父 古平 喜人様
- 6月11日 評議員 青木 渚香氏 享年90
- 7月11日 評議員 庄田 華風氏 享年91
ご尊父 庄田 華川様
- 事後報告
○ 令和4年12月30日 正会員 紅谷 碧水氏 享年88

公益社団法人 中部日本書道会

第35回 書道教育研修会のご案内

〈実技講習〉

この研修会は、書道教育者の養成及び書道教育の普及を目的として開催します。

- ◆期 日 令和5年10月15日(日)
- ◆会 場 名古屋国際センター 5階第1会議室
名古屋市中村区那古野1丁目47-1 電話〈052〉581-5679
- ◆受 付 9:25～9:40
- ◆内 容 9:45～ 開会式
9:55～ 書道講話 中部日本書道会副理事長 岡野楠亭先生
10:30～12:20 漢字 中部日本書道会理事
一書いてみよう! はじめての隷書一 高木玄齊先生
12:20～13:30 昼 食
13:30～15:20 近代詩文書 中部日本書道会理事
一羊毛長長鋒の表現と使い方一 原田凍谷先生
15:45～16:00 閉会式 修了証授与

●必ず午前、午後共受講して下さい。●実技講習ですので用具一式を持参して下さい。

※但、基本的文具、教材は会場でも販売する予定です。本年は菊屋商店〈TEL 052-241-1145〉が出店します。

- ◆受講資格 本会会員及び一般
但、本会会員で書道教育推薦看板申請希望者のうち準会員の方は必修です。

- ◆受講料 本会会員 無料
一般 3,000円 (教材費)

- ◆定 員 56名

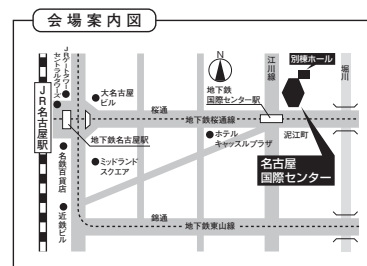
- ◆申込方法 郵便番号、住所、氏名、電話番号、本会会員資格又は一般の別を明記の上、ハガキ又はメールでご応募ください。FAX又は電話でのお申し込みはお受け出来ません。

【ハガキ応募先】〒450-0002 名古屋市中村区名駅二丁目45番19号 桑山ビル8階C号室
公益社団法人 中部日本書道会 書道教育研修会係

【メール応募先】kensyu@cn-sho.or.jp

- ◆申込締切 令和5年9月15日(金) 本部にて申込書到着順に受付します。
定員になり次第締め切りますので早目にお申し込み下さい。

※受講のお知らせは、締切後発送します。



公共交通機関を御利用下さい。

- 会場へのアクセス
- JR/「名古屋」……………下車徒歩7分
 - 名鉄/「名鉄名古屋」……………下車徒歩7分
 - 近鉄/「近鉄名古屋」……………下車徒歩7分
 - 地下鉄/「名古屋」(東山線)……………下車徒歩7分
 - 地下鉄/「国際センター」(桜通線)……………下車
 - 市バス/「国際センター」……………下車

主催 公益社団法人 中部日本書道会・中日新聞社
後援 愛知県教育委員会・名古屋市教育委員会(申請中)